



FEther PCI-TXL

# 取扱説明書

<http://www.corega.co.jp/>

# 安全のために



必ずお守りください



## 警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

### 分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

### 雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

### 異物、水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水がかかったり、異物が触れないように注意してください。万一水がかかったり、異物が触れた場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

### 通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

### 湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

### 取り付け・取り外しのときは電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントに差したままでは、コンピュータに電気が流れています。感電の恐れがありますので、取り付け、取り外し作業を行う前には、必ず電源プラグを抜いてください。



プラグを抜く

# ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 95%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



## 静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分などに素手で触れないでください。



## 取り扱いはいねいに

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えないでください。



## お手入れについて

### 清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



### お手入れには次のものは使わないでください

- ・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん  
(化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。)



シンナー  
類不可

# はじめに

この度は、「corega FEther PCI-TXL」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。この取扱説明書は本製品を正しくご使用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管していただきますようお願いいたします。

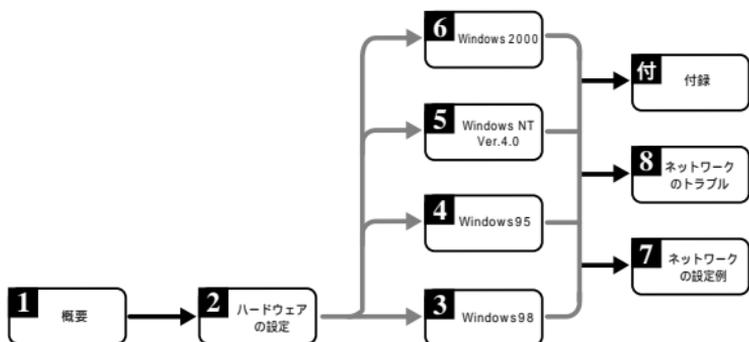
## 内容物をご確認ください

本製品パッケージの内容は、下記の通りです（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

- corega FEther PCI-TXL 本体
- ドライバーディスク（1枚）
- 取扱説明書 / 保証書（本書）
- シリアル番号シール

## この取扱説明書の構成

この取扱説明書は、下図のような構成になっています。ご使用のオペレーティングシステム（OS）に応じて、図のように読み進んでください。OS（ドライバー）に依存したトラブルシューティング（エラーメッセージ）は、各章ごとに説明されています。OS に依存しないネットワークに関するトラブルについては、第 8 章で説明されています。



ドライブ名「A:」「C:」「D:」

本書では、ドライブ名として下記を仮定して説明しています。ご使用のコンピュータでドライブ名が異なる場合は、ご使用のコンピュータにおけるものと読み替えてください。

- 「フロッピーディスクドライブ」として「A:」
- 「起動ドライブ（ハードディスク）」として「C:」
- 「CD-ROM ドライブ」として「D:」

## 目次

はじめに.....	4
1 概要.....	8
1.1 特長.....	8
1.2 使用環境.....	8
1.2.1 対応コンピュータ機種.....	8
1.2.2 対応オペレーティングシステム.....	9
1.3 各部の名称と働き.....	9
1.3.1 各部の説明.....	9
1.3.2 動作表示LED.....	10
1.4 ドライバーディスク.....	11
2 ハードウェアの設定.....	12
2.1 コンピュータへの取り付け・取り外し.....	12
2.1.1 コンピュータへの取り付け.....	12
2.1.2 コンピュータからの取り外し.....	13
2.2 イーサネットへの接続.....	13
2.2.1 本製品とネットワークケーブルとの接続.....	13
2.2.2 リンクの確認.....	14
3 Windows98.....	15
3.1 ドライバーのインストール.....	15
3.1.1 用意するもの.....	15
3.1.2 新規インストール.....	15
3.2 インストールの確認とアダプターの設定.....	19
3.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認.....	19
3.2.2 ネットワークの設定.....	22
3.2.3 ドライバーの設定.....	22
3.3 ドライバーの更新.....	24
3.4 ドライバーの削除.....	29
3.5 ドライバーの再インストール.....	31
3.6 ドライバーのトラブル.....	31
3.6.1 デバイスマネージャで正常に認識されない.....	31
3.6.2 デバイスマネージャで「x」マークが付く.....	32
3.6.3 違うドライバーがインストールされた.....	32
3.6.4 リソース値重複の回避.....	32
3.6.5 ご使用コンピュータの確認.....	33
4 Windows95.....	34
4.1 ドライバーのインストール.....	34
4.1.1 用意するもの.....	34

4.1.2	Windows95 のバージョンの確認	34
4.1.3	新規インストール	35
4.2	インストールの確認とアダプターの設定	40
4.2.1	デバイスマネージャによるインストールの確認	40
4.2.2	ネットワークの設定	43
4.2.3	ドライバーの設定	43
4.3	ドライバーの削除	45
4.4	ドライバーの再インストール	46
4.5	ドライバーのトラブル	47
4.5.1	デバイスマネージャで正常に認識されない	47
4.5.2	デバイスマネージャで「x」マークが付く	47
4.5.3	リソース値重複の回避	48
4.5.4	ご使用コンピュータの確認	49
5	Windows NT Ver. 4.0	50
5.1	インストール時のご注意	50
5.2	ドライバーのインストール	51
5.2.1	用意するもの	51
5.2.2	新規インストール	51
5.3	インストールの確認とアダプターの設定	61
5.3.1	リソース値の確認	61
5.3.2	ドライバーの設定	62
5.4	本製品を使用しないとき	64
5.5	ドライバーの削除	65
5.6	ドライバーの再インストール	66
6	Windows 2000	67
6.1	ドライバーのインストール	67
6.1.1	用意するもの	67
6.1.2	新規インストール	67
6.2	インストールの確認とアダプターの設定	71
6.2.1	デバイスマネージャによるインストールの確認	71
6.2.2	ネットワークの設定	73
6.2.3	ドライバーの設定	73
6.3	ドライバーの更新	75
6.4	ドライバーの再インストール	80
6.5	本製品を一時的に使用しないとき	80
6.6	ドライバーのトラブル	82
6.6.1	本製品を認識しない	82
6.6.2	「近くのコンピュータ」が表示されない	83
6.6.3	ご使用コンピュータの確認	84
7	ネットワークの設定	85
7.1	Windows98/95	85
7.1.1	ネットワーク接続をするための設定方法	85

7.1.2 ネットワークコンポーネントの確認 .....	85
7.1.3 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加 .....	86
7.1.4 「Microsoft ネットワーククライアント」の追加 .....	87
7.1.5 プロトコル (TCP/IP または NetBEUI) の追加 .....	88
7.2 Windows 2000 .....	90
7.3 識別情報の確認 .....	91
7.4 コンピュータのディスク共有設定 .....	94
7.5 他のコンピュータへの接続 .....	95
<b>8 ネットワークのトラブル</b> .....	<b>97</b>
8.1 LINK LEDは点灯していますか? .....	97
8.2 LINK LEDは点灯しているが ... .....	97
8.3 Auto-Negotiation 機能 .....	98
8.4 ハードウェアの故障 .....	98
<b>付録</b> .....	<b>99</b>
A 製品仕様 .....	99
B ネットワークインターフェース .....	100
C MACアドレス .....	101
D 保証と修理について .....	101
E ユーザーサポート .....	102
F おことわり .....	106
<b>調査依頼書</b> .....	<b>108</b>

# 1 概要

---

本製品の特長、使用環境、各部の名称について説明します。

## 1.1 特長

本製品は PCI 規格に適合したバスを持つコンピュータを Fast Ethernet LAN システムに接続するための LAN アダプターです。

本製品は IEEE802.3 10BASE-T 規格とともに、IEEE802.3u Fast Ethernet 規格に準じた 100BASE-TX 規格に適合しており、ご使用のネットワーク環境に応じて 100M/10M Ethernet を自動的に切り替えて動作します。

- 32bit バス・マスタ転送方式を採用
- 100M/10Mbps 通信を同一のポート (RJ-45 コネクター) でサポート (自動切替)
- 100M/10Mbps 通信で Full duplex (全二重) 通信が可能 (自動切替 / 手動切替可能)
- PCI BIOS によるオートコンフィグレーション (I/O アドレス、インタラプトレベルの自動設定) <sup>1</sup>
- 動作状態を表示する 3 個の LED が付属
- Auto-negotiation 機能搭載

レジューム機能について



本製品を使用中は、レジューム機能は使用しないでください。本製品を使用中にコンピュータがサスペンド状態になった場合、通信の切断や、その他予期しないエラーが発生することがあります。

## 1.2 使用環境

### 1.2.1 対応コンピュータ機種

本製品は、PCI バスコネクターを持つ以下のコンピュータ機種に対応しています。

- AT 互換機および NEC PC98-NX

---

1. 本製品のドライバーをインストールすると、PCI ローカルバス仕様により、ハードウェアリソースが自動設定され、管理されます。但し、本製品を plug & play に対応していない他の拡張アダプターと併用する場合は、拡張アダプターのための設定をコンピュータに施す必要があります。拡張アダプターや PCI バスの設定方法 (セットアップユーティリティなど) に関しては、ご使用コンピュータのマニュアルをご覧ください。コンピュータメーカーにお問い合わせください。

## 1.2.2 対応オペレーティングシステム

本製品は、次のオペレーティングシステム（OS）に対応しています（日本語版のみ）。

- Windows95
- Windows98（Windows98 Second Editionを含む）
- Windows 2000
- Windows NT4.0

## 1.3 各部の名称と働き

### 1.3.1 各部の説明

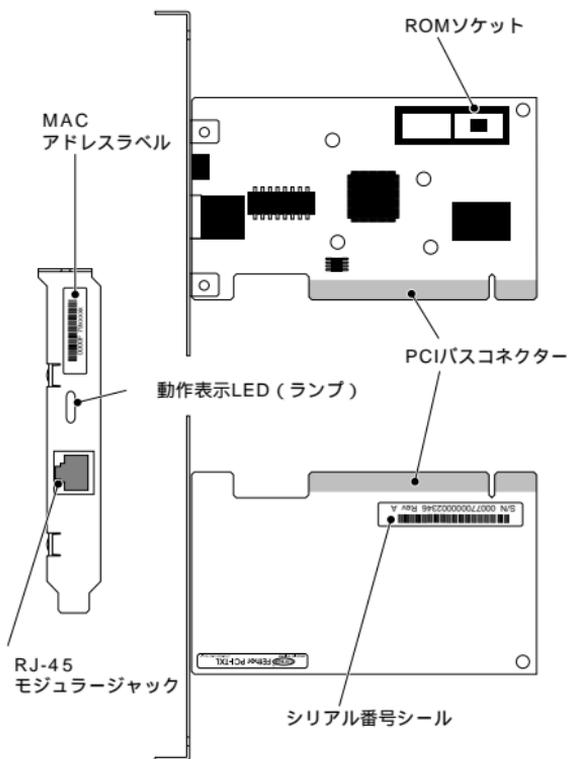


図 1.3.1-1 外観図

### シリアル番号シール

製品のシリアル番号（製造番号）とリビジョンコードが記載されています。これらはユーザーサポートへの問い合わせの際に必要となります。

### 動作表示 LED（ランプ）

動作状態を 3 個の LED（ランプ）で表示します。詳細は「1.3.2 動作表示 LED」をご覧ください。

### MAC アドレスラベル

各製品に固有の MAC アドレスが記載されています。MAC アドレスについては「C MAC アドレス」（p.101）をご覧ください。

### RJ-45 モジュージャック

ネットワークケーブルを接続するコネクタです。使用するネットワークケーブルについては「2.2.1 本製品とネットワークケーブルとの接続」をご覧ください。

### PCI バスコネクタ

本製品とコンピュータのインタフェースとなるコネクタです。この部分は素手で触らないようにしてください。

### ROM ソケット

本製品は、ROM ソケットを実装しておりますが、ネットワークブート ROM 機能には、対応していません。

## 1.3.2 動作表示 LED

本製品には動作状態を表示する 3 個の LED（ランプ）が装備されています。各 LED の名称と働きは以下の通りです。

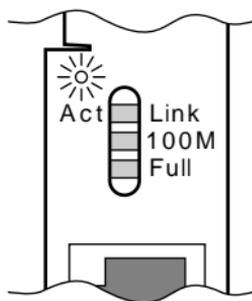


図 1.3.2-1 動作表示 LED

(上から)

Link/Act (緑)

本製品とハブ(またはスイッチ)の間でリンクが成立すると点灯し、パケットを送受信すると点滅します。

100M (緑)

100BASE-TX でリンクが成立すると点灯します。

Full (緑)

Full duplexモード(全二重通信)のときに点灯します。

## 1.4 ドライバーディスク

本製品には、下記のドライバーディスクが付属しています。

- AT互換機 / NEC PC98-NX 用



注意

必ず、ドライバーディスクに含まれる「README」ファイルをお読みください。  
「README」には、この取扱説明書に記載されていない最新の情報が記載されています。

# 2 ハードウェアの設定

---

本製品をコンピュータに取り付け、イーサネットに接続するまでの手順を説明します。この手順を実行することにより、ネットワーク環境を提供するドライバソフトウェアをインストールする準備が整います。

## 2.1 コンピュータへの取り付け・取り外し

以下に示す手順に従い、本製品をコンピュータの拡張スロットに取り付けてください。

コンピュータ本体のカバーの取り外し・アダプターの取り付けの詳細は、ご使用になるコンピュータのマニュアルをご覧ください。

### 2.1.1 コンピュータへの取り付け

- (1) コンピュータ上で動作しているソフトウェアを全て終了し、本体の電源をオフにしてください。
- (2) **必ずコンピュータの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。**



警告

コンピュータの拡張スロットに本製品を実装する作業は、必ずコンピュータの電源をオフにし、電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください。電源をオンにしたままこの作業を行うとコンピュータや本製品の故障の原因となることがあります。

- (3) コンピュータの本体カバーを外してください。
- (4) スロットカバーを固定しているねじを外し、スロットカバーを外してください。
- (5) PCI バス用の空きスロットを確認します。PCI バススロットの位置は、お使いのコンピュータのマニュアルを参照してください。
- (6) 本製品を拡張スロット（PCI バス用）にしっかりと奥まで挿し込んでください。



警告

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、PCI バスコネクタの接点部分、部品などに素手で触れないでください。

- (7) (4) で外したねじを使用して、本製品を固定してください。このねじは必ず取り付けてください。

- (8) コンピュータの本体カバーを取り付けてください。  
ネットワーク接続に必要なハードウェア設定 (DMA、IRQ、I/O アドレスなど) は、本製品をコンピュータの拡張スロットに取り付けただけで自動的に行われます。

### 2.1.2 コンピュータからの取り外し

- (1) コンピュータへの取り付け手順の (1) ~ (3) と同様に、コンピュータの本体カバーを外します。
- (2) 本製品を固定しているねじを外します。
- (3) 本製品をゆっくり引き抜きます。引き抜く時は左右に振らずに真っすぐ引き抜いてください。



警告

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、PCI バスコネクターの接点部分、部品などに素手で触れないでください。

- (4) スロットカバーを元どおりに取り付けてください。
- (5) コンピュータの本体カバーを取り付けてください。

## 2.2 イーサネットへの接続

次に、本製品をイーサネットに接続します。この作業はネットワーク環境を提供するソフトウェアパッケージをインストールする前に行います。

### 2.2.1 本製品とネットワークケーブルとの接続



警告

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。

- (1) ご使用の環境に合ったネットワークケーブル (ツイストペアケーブル) を用意します。詳細は以下をご覧ください。

100BASE-TX 用

必ずカテゴリ 5 のケーブルをご使用ください。カテゴリ 5 以外のケーブルを使用した場合、「リンクできない」、「通信でエラーが発生する」、「通信できない」などの障害

## 2 ハードウェアの設定

が発生します。ツイストペアケーブルの категорияは、外見では識別できないので、何種類もの категорияのケーブルを混在して使用している場合は特にご注意ください。

10BASE-T 用

category 5、4、3のケーブルを使用することができます。

- (2) ネットワークケーブルの一方の端に付いたモジュラープラグを本製品の RJ-45 モジュラージャックに、カチッと音がするまで挿し込んでください（両端のプラグのどちらでも構いません）。
- (3) ネットワークケーブルを引っ張ってみて抜けないことを確認してください。
- (4) ネットワークケーブルのもう一端のモジュラープラグをハブのコネクター（UTP）に挿し込んでください。手順は、上記（2）と同様です。

ネットワークケーブルの外し方



UTP ケーブルの RJ-45 プラグは、プラグの爪を指で押さえながら手前に引くと、抜くことができます。

### 2.2.2 リンクの確認

最後に、ハブ（またはスイッチ）とコンピュータの両方の電源をオンにし、本製品の Link LED とハブの LINK OK LED の両方が点灯することを確認します。点灯が確認できれば、ネットワークへの接続は正常に完了しています。



"LINK OK" LED の名称はハブの機種により異なります。また、"LINK OK" LED を持たない機種もありますので詳細はハブのマニュアルでご確認ください。

どちらか一方しか点灯していない、または両方が消灯している場合は本製品とハブは正しくリンクしていません。その場合はご使用のネットワークケーブルがしっかり接続されていない、または断線している、あるいは適切なものを使用していないなどの原因が考えられます。ケーブル類の接続を直す、ケーブル類を交換してみる、ハブのポートを入れ替えてみるなどの対策を行ってみてください。

## 3 Windows 98

---

本製品のドライバーを Windows98 ( Windows98 Second Edition を含む ) 上にインストールする手順を説明します。



注意

ここに挙げる手順は一例です。お客様の環境によっては、手順が異なることがあります。

### 3.1 ドライバーのインストール

#### 3.1.1 用意するもの

- FEther PCI-TXL 本体・UTP ケーブルなど
- コンピュータ ( Windows98 インストール済み )
- FEther PCI-TXL ドライバーディスク ( 本製品に付属 )
- Windows98 の CD-ROM

プリインストール版 Windows98 をご使用の場合は必要なファイルが予めハードディスクにコピーされていますので CD-ROM は必要ありません。ただし、一度 OS を削除し、再インストールしている場合は必要です。



注意

Windows98 がコンピュータ購入時にあらかじめインストールされた形態で提供されたもの、すなわちプリインストール版である場合、Windows98 のバックアップ CD-ROM ( またはリカバリー CD-ROM ) が付属しているかどうかをご確認ください。バックアップ CD-ROM が付属していない場合は、安全のために必ずフロッピーディスクに Windows98 のバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。バックアップ手順は、ご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

#### 3.1.2 新規インストール

本製品のドライバーを Windows98 に新規インストールする手順を説明します。ここでは、今までにネットワークアダプター用ドライバーをインストールしたことがなく、今回初めて本製品のドライバーをインストールする場合の手順について説明します。

- (1) 本製品をコンピュータの拡張スロットに取り付けた状態で、コンピュータの電源をオンにし、Windows98 を起動してください。
- (2) Windows98 は本製品を自動的に検出し、次のダイアログを表示します。「次へ」をクリックしてください。



図 3.1.2-1 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の起動

- (3) 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

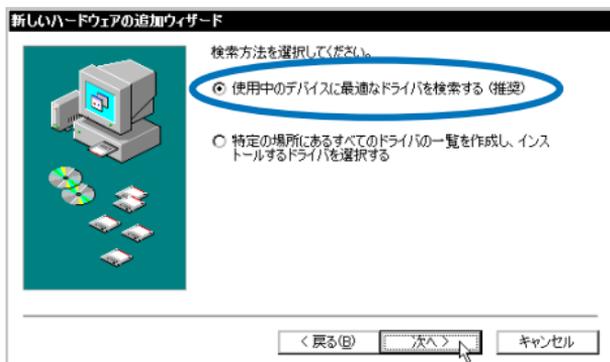


図 3.1.2-2 検索方法の選択

- (4) 本製品のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、「検索場所の指定」を選択して、「A:¥windows.98」を入力し、「次へ」をクリックしてください。



図 3.1.2-3 検索場所の指定

- (5) 次のダイアログで、「ドライバのある場所」が「A:\WINDOWS.98\NETCOKK.INF」となっていることを確認し、「次へ」をクリックしてください。

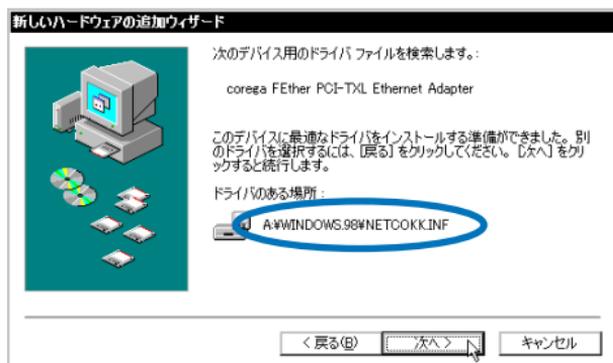


図 3.1.2-4 ドライバファイルの検索

- (6) ここで、本製品のドライバーディスクが要求された場合、「OK」ボタンをクリックし、本製品のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「A:\windows.98」と入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。



注意

重要：場合によっては、「COLPCI5.sysが見つからないのでWindows98のCD-ROMを入れてください」というようなダイアログが表示されることがあります。「COLPCI5.sys」はドライバーディスクに収められているファイルです。このような場合は、「ファイルのコピー元」に「A:\windows.98」を入力してください。

- (7) 必要な Windows98 ファイルのコピーが始まります。次のようなダイアログが表示される場合、Windows98 の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入し、「OK」をクリックし、「ファイルのコピー元」に「D:¥win98」を入力してください。



図 3.1.2-5 Windows98 CD-ROM の要求

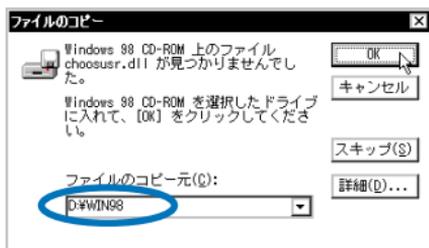


図 3.1.2-6 Windows98 関連ファイルの所在の指定



- ご使用のコンピュータがプリインストール版である場合、「ファイルのコピー元」に「C:¥windows¥options¥cabs」を入力してください。

注意

- (8) 「完了」ボタンをクリックしてください。

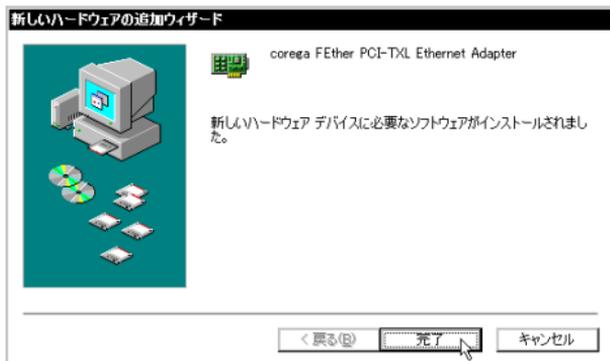


図 3.1.2-7 完了

- (9) フロッピーディスクドライブからドライバーディスクを抜き、「はい」をクリックし、コンピュータを再起動してください。

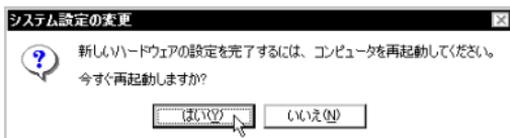


図 3.1.2-8 再起動

- (10) 以上でドライバーのインストールは終了です。引き続き、「3.2 インストールの確認とアダプターの設定」にお進みください。



注意

インストール後の再起動時に、次のようなダイアログが表示されることがあります。DHCP サーバーを使用していない場合は、「いいえ」をクリックしてください。DHCP サーバーを使用している場合（例えば、ケーブルテレビを使用したインターネット接続等）は、「はい」をクリックしてください。LAN 環境で TCP/IP をご使用になる場合は、DHCP の設定に関してシステム管理者にご相談ください。

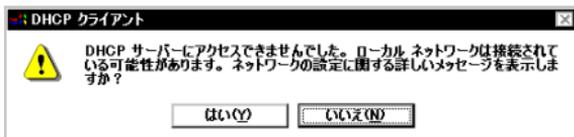


図 3.1.2-9 DHCP メッセージ

## 3.2 インストールの確認とアダプターの設定

はじめにドライバーのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

### 3.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認

- (1) 「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。



図 3.2.1-1 コントロールパネル

- (2) 「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。インストールが正常に行われていれば「ネットワークアダプタ」の下に、「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」が表示されます。

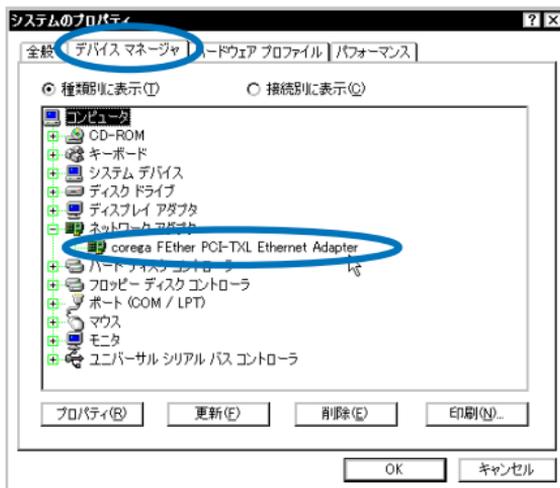


図 3.2.1-2 デバイスマネージャ



**注意** 本製品のアイコンに「×」「?」「!」などのマークがついていた、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく「不明なデバイス」や「その他のデバイス」にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは「3.6ドライバのトラブル」をご覧ください。

- (3) 「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」を選択(反転表示)し、「プロパティ」「全般」タブと進みます。「デバイスの状態」で「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください。



図 3.2.1-3 デバイスの状態

- (4) 本製品が使用する I/O ベースアドレス、インタラプト(IRQ)などは、Windows98 によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これらを確認することができます。



図 3.2.1-4 リソースの確認

### 3.2.2 ネットワークの設定

「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックし、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。インターネットへのアクセスを行うためには（WWW ブラウザーなどをご使用になるためには）、TCP/IP プロトコルが必須です。ネットワーク接続の設定に関しては、「7 ネットワークの設定」（p.85）を参照してください。設定に関する詳細は、お客様の環境におけるシステム管理者にご相談ください。

必要な設定を終えたら、「ネットワーク」ダイアログの「OK」をクリックしてください。再起動を促すダイアログが表示されます。設定内容は、再起動後から有効となります。



図 3.2.2-1 ネットワークの設定

### 3.2.3 ドライバーの設定

ここでは、本製品のネットワーク通信モードに関する設定を行います。

- (1) 図 3.2.2-1 で「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」「プロパティ」「詳細設定」タブと進み、ネットワーク通信モードの設定を行います。「値 (V)」リストからご使用の環境に合ったものを選択します。詳細はシステム管理者にご確認ください。

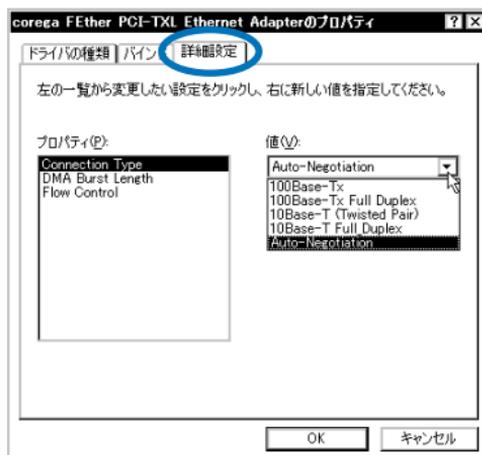


図 3.2.3-1 ネットワークメディアの設定

各項目の意味は以下の通りです。

#### Connection Type

- 100Base-TX  
100Mbps の Half duplex (半二重) モードに設定します。
- 100Base-TX Full duplex  
100Mbps の Full duplex (全二重) モードに設定します。
- 10Base-T (Twist Pair)  
10Mbps の Half duplex (半二重) モードに設定します。
- 10Base-T Full Duplex  
10Mbps の Full duplex (全二重) モードに設定します。
- Auto-Negotiation (デフォルト)  
Auto-negotiation を有効 (Enable) に設定します。この項目を選択した場合、接続先機器の仕様によって動作は以下のように変わりますのでご注意ください。

接続先機器が Auto-negotiation をサポートしている場合

可能な最高の速度 (100/10 Mbps) およびモード (Full/Half duplex) となります。

接続先機器が Auto-negotiation をサポートしていない場合

接続先機器 (ハブなど) が Auto-negotiation 機能をサポートしていない場合にこの「Auto-Negotiation」を選択すると、ネットワークメディアは通信速度 (100/10

Mbps)のみ自動的に検出し、検出された速度の Half duplex モードとなります。したがって、接続先機器が 100Mbps の Full duplex モードをサポートしていても Auto-negotiation 機能をサポートしていない場合に最高速度 ( 100Mbps Full duplex ) を得るためには、前述の「100Base-TX Full duplex」を選択する必要がありますのでご注意ください。

接続先機器が Half duplex ( 半二重 ) のみに対応している場合、本製品を Full duplex ( 全二重 ) に設定すると、ネットワーク障害の原因となりますので避けてください。この場合は、接続先機器と同様に Half duplex に固定するか、Auto-Negotiation を選択してください。

### DMA Burst Length

デフォルトは「16 DWORDS」です。この値は、デフォルト値のままお使い頂くことを推奨いたします。

### Flow Control

デフォルトは「Disabled ( 無効 )」です。Flow Control機能を使用する場合は、この値を「Enabled ( 有効 )」に設定してください。特別、Flow Control を必要としない場合は、デフォルトの「Disabled ( 無効 )」のままお使い頂くことを推奨いたします。

## 3.3 ドライバの更新

ドライバーの更新は、本製品用の最新のドライバーを入手したときに実行します。

- (1) Windows98 の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブに入れてください。( プリインストール版 Windows98 をご使用の場合は必要なファイルが予めハードディスクにコピーされていますので CD-ROM は必要ありません。ただし、一度 OS を削除し、再インストールしている場合は必要です。)
- (2) 「コントロールパネル」 「システム」 「デバイスマネージャ」タブと進みます。「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」を選択して、「プロパティ」ボタンをクリックしてください ( 図 3.2.1-2 )。
- (3) 次のダイアログで「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックしてください。

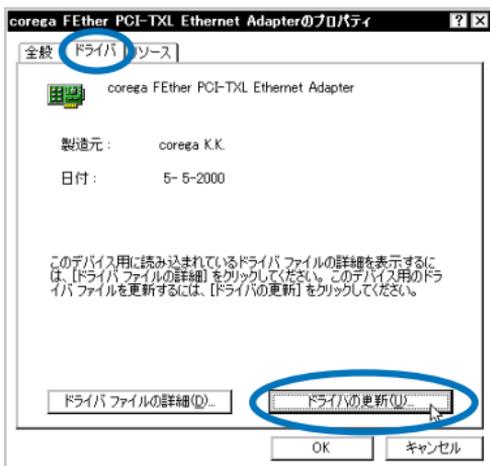


図 3.3-1 「ドライバの更新」ボタン

- (4) 「デバイスドライバの更新ウィザード」が起動されますので、「次へ」をクリックしてください。



図 3.3-2 更新されたドライバーの検索

- (5) 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

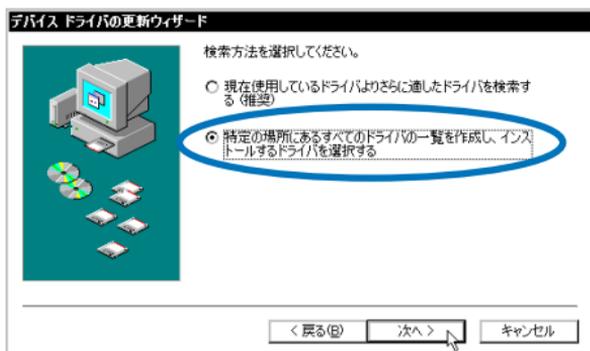


図 3.3-3 検索方法の選択

- (6) 次のダイアログが表示されたら、「ディスク使用」をクリックします。

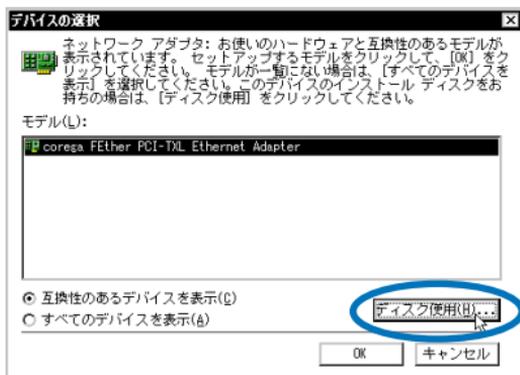


図 3.3-4 ドライバインストールにはディスクを使用

- (7) 本製品の最新のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、次のダイアログで「A:¥windows.98」と入力して、「OK」をクリックしてください。

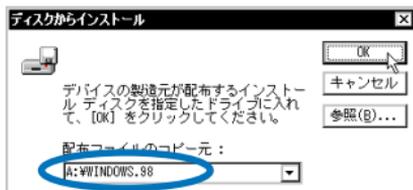


図 3.3-5 ドライバの所在の指定

- (8) Windows98 によってドライバーディスクが検索され、次のダイアログが表示されます。「OK」をクリックしてください。ダイアログが閉じ、図 3.3-4 の画面に戻りますが、画面が自動的に閉じて、手順 (9) の図 3.3-7 の画面が表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。(1 ~ 2分)



図 3.3-6 選択するドライバー

- (9) 次のダイアログで、「ドライバのある場所」が「A:¥WINDOWS.98¥NETCOKK.INF」となっていることを確認し、「次へ」をクリックしてください。



図 3.3-7 ドライバファイルの検索

- (10) ここで、本製品のドライバーディスクが要求された場合、「OK」ボタンをクリックし、本製品のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「A:¥windows.98」と入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。



注意

重要 :場合によっては、「COLPCIX5.sysが見つからないのでWindows98のCD-ROMを入れてください」というようなダイアログが表示されることがあります。「COLPCIX5.sys」はドライバディスクに収められているファイルです。このような場合は、「ファイルのコピー元」に「A:¥windows.98」を入力してください。

- (11) また、次のようなダイアログが表示される場合、Windows98のCD-ROMがCD-ROMドライブに挿入されていることを確認し、「ファイルのコピー元」に「D:¥win98」を入力してください。

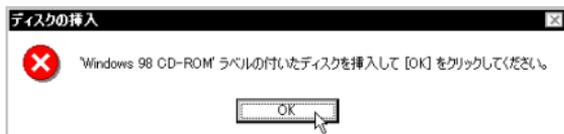


図 3.3-8 Windows98 CD-ROM の要求

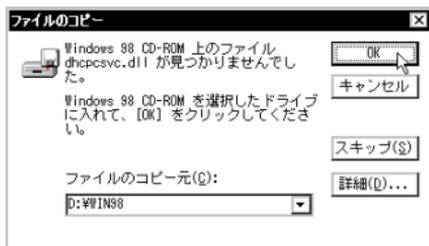


図 3.3-9 Windows98 関連ファイルの所在の指定



注意

ご使用のコンピュータがプリインストール版である場合、「ファイルのコピー元」に「C:¥windows¥options¥cabs」を入力してください。

- (12) 「完了」をクリックしてください。



図 3.3-10 完了

- (13) フロッピーディスクドライブからドライバーディスクを取り出し、「はい」をクリックしてください。コンピュータは、更新されたドライバーを使用して再起動します。

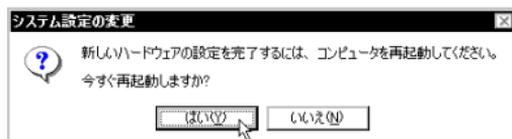


図 3.3-11 再起動

- (14) 「3.2 インストールの確認とアダプターの設定」を実行してください。

### 3.4 ドライバーの削除

ドライバーの再インストールを行う場合、ドライバーを一旦削除してから行います。ドライバーのインストールに失敗した場合も、この手順にならない、間違ってインストールされたドライバーをまず削除してから、再びインストール作業を行います。

- (1) 「コントロールパネル」 「システム」 「デバイスマネージャ」タブと進み、「ネットワークアダプタ」の下から項目「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」を選択し、「削除(E)」をクリックしてください。

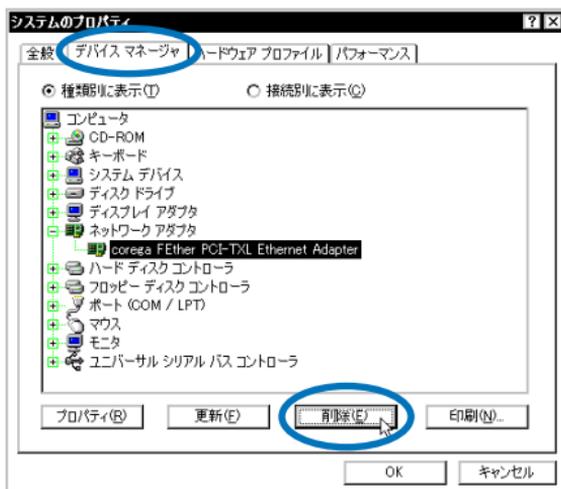


図 3.4-1 ドライバーの削除

- (2) 次のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。

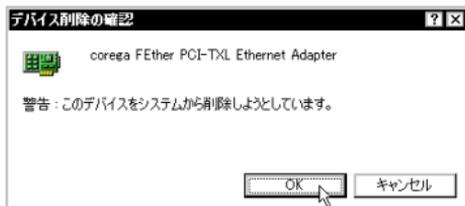


図 3.4-2 デバイス削除の確認

- (3) 次のダイアログが表示されたら、「いいえ」をクリックしてください。

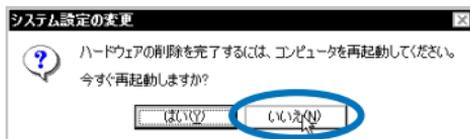


図 3.4-3 再起動の確認

- (4) 「ネットワークアダプタ」の下の本製品のアイコンが消えていることを確認し、「OK」ボタンをクリックしてください。



本製品を使用しない場合は、Windows98を「終了」し、コンピュータの電源をオフにして<sup>1</sup>、拡張スロットから本製品を取外してください。次回のWindows98起動時から、本製品のドライバーがインストールされていない状態となります。

- (5) 以上でドライバーの削除は終了です。ドライバーの再インストールを行う場合は、コンピュータを再起動してください。

## 3.5 ドライバーの再インストール

ドライバーを再インストールする手順は以下の通りです。

- (1) 「3.4 ドライバーの削除」の手順にしたがい本製品のドライバーを削除します。
- (2) 「3.1 ドライバーのインストール」の手順にしたがい本製品のドライバーをインストールします。

## 3.6 ドライバーのトラブル

ここではドライバーのインストールに伴うトラブルの代表的な例と、その対処法について説明します。

### 3.6.1 デバイスマネージャで正常に認識されない

「3.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認」にしたがって、インストールの確認を行った際に「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」アイコンの表示が以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗しています。

「ネットワークアダプタ」の項目がない

「その他のデバイス」「不明なデバイス」の下にアイコンが表示されている



この場合、以下のような操作を行ったことが考えられます。

- ドライバーインストールの作業中に行われる netapi.dllなどの Windows98関連のファイルのインストールをキャンセルしてしまった。
- COLPCIX5.sys の要求において「キャンセル」をクリックした。

アイコンに「!」「?」マークがある

このようなときは、ドライバーを一旦削除し、再インストールを行います。以下の手順を実行してください。

1. この時、ご使用コンピュータの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

- (1) 不正にインストールされた「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」アイコンを選択し、「削除 (E)」ボタンをクリックしてください。
- (2) 「3.4 ドライバーの削除」の手順(2)以降を実行してください。
- (3) 「3.1 ドライバーのインストール」の手順にしたがい本製品のドライバーをインストールします。

### 3.6.2 デバイスマネージャで「x」マークが付く

アイコンに「x」マークがある場合は、デバイスが「使用不可」に設定されています。以下の手順にしたがって使用許可の状態に切り替えてください。

- (1) 「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」を選択(反転表示)し、「プロパティ」ボタンをクリックし、「全般」タブを表示します(図 3.2.1-3)。
- (2) 「デバイスの使用」欄の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェック「✓」を外してください。

### 3.6.3 違うドライバーがインストールされた

ドライバーインストール時の検索場所の指定(3.1.2 の手順(4))で本製品に付属のフロッピーディスクではなく、CD-ROM を指定してしまった場合、不適切なドライバーが組み込まれてしまいます。

不適切なドライバーがインストールされたときは、次の手順で正しいドライバーをインストールし直します。

- (1) 「3.4 ドライバーの削除」の手順にしたがい不適切なドライバーを削除します。この場合、削除するネットワークアダプタは誤ってインストールされたドライバーです。
- (2) 「3.1 ドライバーのインストール」の手順にしたがい本製品のドライバーをインストールします。

### 3.6.4 リソース値重複の回避

前述の手順にしたがってドライバーの削除および再インストール作業を行っても、なおアイコンに「?」、「!」マークが付いている場合は、他の拡張アダプターとリソースの値が重複している可能性があります。

特に、Plug & Play に対応していない他の拡張アダプターを本製品とともに使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値を Windows98 に予め登録（「予約」と呼びます）し、その値が他の Plug & Play 対応デバイス（本製品を含む）によって使用されないようにしておく、値の重複を回避できます。



コンピュータ機種によっては、「BIOS」に組み込まれている PCI や ISA の設定ユーティリティを使用して、リソースの重複を回避する先があります。詳細は、ご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

- (1) Plug & Play 非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値（インタラプト（IRQ）I/O ベースアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス（DMA））を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧になるか、または、メーカーにお問い合わせください。
- (2) 「コントロールパネル」 「システム」 「デバイスマネージャ」タブと進みます。
- (3) 「デバイスマネージャ」タブで「コンピュータ」を選択し、「プロパティ」 「リソースの予約」タブと進みます。
- (4) 該当する項目を選択し、「追加」ボタンをクリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。

### 3.6.5 ご使用コンピュータの確認

ご使用コンピュータの OS が Windows98 のプリインストールタイプでない場合（Windows3.1/95 からアップグレードされた場合など）は、ご使用のコンピュータ本体が Windows98 の plug & play 機能に対応していない可能性があります。「3.6ドライバーのトラブル」や「8 ネットワークのトラブル」（p.97）」の手順で操作しても正常に動作しない場合は、ご使用コンピュータメーカーにお問い合わせください。

# 4 Windows95

---

本製品のドライバーを Windows95 上にインストールする手順を説明します。



注意

ここに挙げる手順は一例です。お客様の環境によっては、手順が異なることがあります。

## 4.1 ドライバーのインストール

### 4.1.1 用意するもの

- FEther PCI-TXL 本体・UTP ケーブルなど
- コンピュータ (Windows95 インストール済み)
- FEther PCI-TXL ドライバーディスク (本製品に付属)
- Windows95 の CD-ROM またはフロッピーディスク  
プリインストール版 Windows95 をご使用の場合は必要なファイルが予めハードディスクにコピーされていますのでマスターディスクは必要ありません。ただし、一度 OS を削除し、再インストールしている場合は必要です。



注意

Windows95がコンピュータ購入時にあらかじめインストールされた形態で提供されたもの、すなわちプリインストール版である場合、Windows95 のバックアップ CD-ROM が付属しているかどうかをご確認ください。バックアップ CD-ROM が付属していない場合は、安全のために必ずフロッピーディスクに Windows95 のバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。バックアップ手順は、ご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

### 4.1.2 Windows95 のバージョンの確認

Windows95 には、Version95Q、VersionA、VersionB、VersionC の 4 種類のバージョンがあります。各バージョンによって、本製品のドライバー・インストール時に表示されるメッセージが異なります。まず、ご使用の Windows95 のバージョンを確認してください。

- (1) コンピュータの電源をオンにし、Windows 95 を起動してください。
- (2) 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックしてください。
- (3) 「システムのプロパティ」ダイアログが現れます。「情報」タブをクリックしてください。

## Version950

「システム:」の番号が「4.00.950」であれば Version950 です。



図 4.1.2-1 Version950

## VersionA

「システム:」の番号が「4.00.950a」であれば VersionA です。



図 4.1.2-2 VersionA

## VersionB、VersionC

「システム:」の番号が「4.00.950 B」であれば VersionB、「4.00.950 C」であれば VersionC です。



図 4.1.2-3 VersionB/C

## 4.1.3 新規インストール

- (1) 本製品をコンピュータの拡張スロットに取り付けた状態で、コンピュータの電源をオンにし、Windows95 を起動してください。
- (2) Windows95 は、本製品を自動的に検出し、「デバイスドライバウィザード」が起動します。<sup>1</sup>「次へ」をクリックしてください。

1. Version950 または VersionA の場合は、表示されるダイアログが異なります。



図 4.1.3-1 デバイスドライバウィザードの起動

- (3) 次の画面が表示されますので、「場所の指定 ...」をクリックしてください。

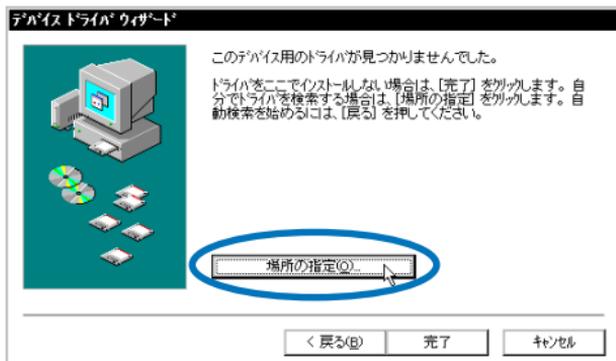


図 4.1.3-2 場所の指定

- (4) 本製品のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、「A:¥windows.95」と入力し「OK」をクリックしてください。

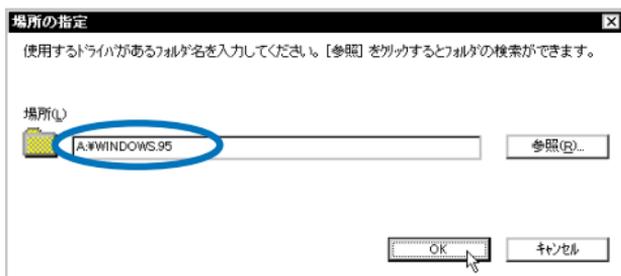


図 4.1.3-3 ドライバーファイルの所在

- (5) 次のダイアログで、ドライバーの名称が「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」となっていることを確認し、「完了」をクリックしてください。



図 4.1.3-4 「デバイスドライバウィザード」の完了

- (6) 次のダイアログが表示される場合は、本製品のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、「OK」をクリックしてください。



図 4.1.3-5 ドライバーディスクの要求

- (7) 続いて「ファイルのコピー」ダイアログが表示されますので、「ファイルのコピー元」に「A:¥windows.95」と入力し「OK」をクリックしてください。

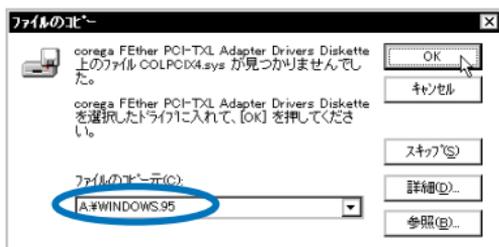


図 4.1.3-6 ファイルのコピー元の指定 (sys ファイル)



ご使用のコンピュータに初めて LANアダプターをインストールする場合はここでコンピュータをネットワーク上で識別するための情報 (コンピュータ名、ワークグループ名、コンピュータの説明) の入力を促すダイアログが表示されます。詳細はシステム管理者にご確認ください。なお、このダイアログの内容をインストール終了後に変更するには、「ネットワーク」(コントロールパネル)をダブルクリックし、「ユーザー情報」タブを選択してください。

- (8) 必要な Windows95 ファイルのコピーが始まります。Windows95 のマスターディスクが要求された場合は、「OK」をクリックし、ご使用の形態に応じて以下のように入力します。

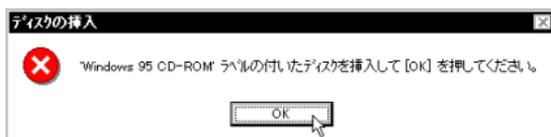


図 4.1.3-7 Windows95 マスターディスクの要求

プリインストール版 Windows95 の場合

この場合は Windows95 ファイルが既にハードディスクにコピーされています。画面上ではディスクを入れるように要求されますが、そのまま「OK」をクリックしてダイアログを閉じ「ファイルのコピー元」に「C:¥windows¥options¥cabs」を指定してください。

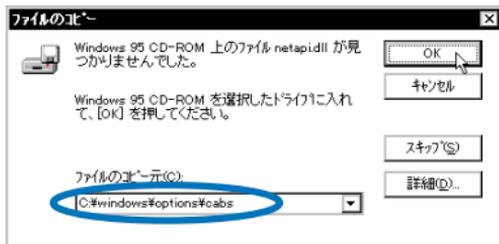


図 4.1.3-8 パスの指定 (プリインストール版)



機種によっては¥windows¥options¥cabsと異なる場所に保存されていることもあります。その場合はコンピュータのマニュアルをご覧になるか、検索コマンドにより拡張子「cab」のファイルが存在するディレクトリを探し、そのディレクトリパスを指定してください。

#### CD-ROM の場合

CD-ROM をドライブに挿入し、「ファイルのコピー元」に「D:¥win95」を入力してください。

#### フロッピーディスクの場合

指示された番号のディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「ファイルのコピー元」で「A:¥」を入力してください。



注意

重要：場合によっては、「COLPCIX4.sysが見つからないのでWindows95のCD-ROMやフロッピーディスクを入れてください」というようなダイアログが表示されることがあります。「COLPCIX4.sys」はドライバーディスクに収められているファイルです。このような場合は、「ファイルのコピー元」に「A:¥windows.95」を入力してください。

- (9) 「システム設定の変更」ダイアログが表示されます。フロッピーディスクが入っている場合は取り出し、「再起動しますか?」という問いに対して、「はい」をクリックし、コンピュータを再起動します。

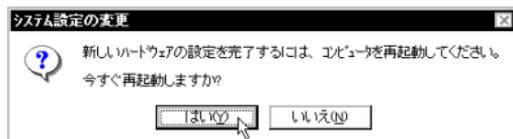


図 4.1.3-9 システム設定の変更



注意

ご使用のコンピュータに既に他のネットワークアダプターのドライバー（ダイアルアップアダプタ等）がインストールされている場合、このダイアログは表示されません。この場合も必ず再起動して本製品のドライバーを有効化してください。

- (10) 以上でドライバーのインストールは終了です。引き続き、「4.2 インストールの確認とアダプターの設定」にお進みください。



注意

インストール後の再起動時に、以下のようなダイアログが表示されることがあります。その場合は、「いいえ」ボタンをクリックしてください。LAN 環境で TCP/IP をご使用になっている場合は、DHCP の設定に関してシステム管理者にご相談ください。



図 4.1.3-10 DHCP メッセージ

## 4.2 インストールの確認とアダプターの設定

再起動したら、はじめにドライバーのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

### 4.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認

- (1) 「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」が表示されます。



図 4.2.1-1 デバイスマネージャ

Windows95 Version 950/A では「OK」は「閉じる」となります。



これらのアイコンに「×」「?」「!」などのマークがついていたり、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく「不明なデバイス」や「その他のデバイス」にある

場合は、インストールに失敗しています。詳しくは「4.5ドライバーのトラブル」をご覧ください。

- (2) 次に、デバイスマネージャで「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」(図 4.2.1-1)を選択(反転表示)し、「プロパティ」をクリックします。「情報」タブの「デバイスの状態」で「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください。

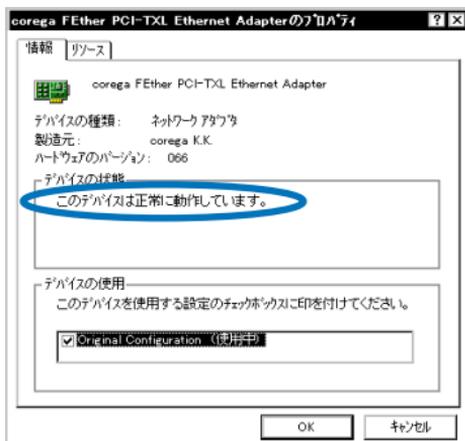


図 4.2.1-2 デバイスの状態 (Version 950/A)



図 4.2.1-3 デバイスの状態 (Version B/C)



Windows95 VersionB または C をご使用の場合、「ドライバ」タブが存在します。「ドライバ」タブを選択すると、下のように「このデバイスには、ドライバファイルは必要でないか、または組み込まれていません。」と表示されますが、これは本製品の仕様によるもので、ご使用には支障ありませんので安心してご使用ください。



図 4.2.1-4 「ドライバ」タブ (Version B/C)

- (3) 本製品が使用する I/O ベースアドレス、インタラプト (IRQ) などは、Windows95 によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これを確認することができます (表示されるまで、時間がかかります)。



図 4.2.1-5 リソースの確認

## 4.2.2 ネットワークの設定

「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックし、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。インターネットへのアクセスを行うためには（WWW ブラウザーなどをご使用になるためには）、TCP/IP プロトコルが必須です。ネットワーク接続の設定に関しては、「7 ネットワークの設定」（p.85）を参照してください。設定に関する詳細は、お客様の環境におけるシステム管理者にご相談ください。

必要な設定を終えたら、「ネットワーク」ダイアログの「OK」をクリックしてください。再起動を促すダイアログが表示されます。設定内容は、再起動後から有効となります。



図 4.2.2-1 ネットワークの設定



上図（図 4.2.2-1）は Windows95 VersionB および C のものです。Version950 および A の場合は「アクセス権の管理」タブはありません。

## 4.2.3 ドライバーの設定

ここでは、本製品のネットワーク通信モードに関する設定を行います。

- (1) 図 4.2.2-1 で「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」 「プロパティ」 「詳細設定」タブと進み、ネットワーク通信モードの設定を行います。「値（V）」リストからご使用の環境に合ったものを選択します。詳細はシステム管理者にご確認ください。

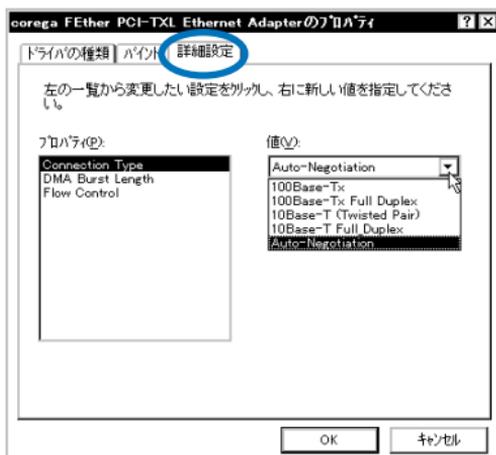


図 4.2.3-1 ネットワークメディアの設定

各項目の意味は以下の通りです。

#### Connection Type

- 100Base-TX  
100Mbps の Half duplex (半二重) モードに設定します。
- 100Base-TX Full duplex  
100Mbps の Full duplex (全二重) モードに設定します。
- 10Base-T (Twist Pair)  
10Mbps の Half duplex (半二重) モードに設定します。
- 10Base-T Full Duplex  
10Mbps の Full duplex (全二重) モードに設定します。
- Auto-Negotiation (デフォルト)  
Auto-negotiation を有効 (Enable) に設定します。この項目を選択した場合、接続先機器の仕様によって動作は以下のように変わりますのでご注意ください。

接続先機器が Auto-negotiation をサポートしている場合

可能な最高の速度 (100/10 Mbps) およびモード (Full/Half duplex) となります。

接続先機器が Auto-negotiation をサポートしていない場合

接続先機器 (ハブなど) が Auto-negotiation 機能をサポートしていない場合にこの「Auto-Negotiation」を選択すると、ネットワークメディアは通信速度 (100/10

Mbps)のみ自動的に検出し、検出された速度の Half duplexモードとなります。したがって、接続先機器が 100Mbps の Full duplexモードをサポートしていても Auto-negotiation機能をサポートしていない場合に最高速度 (100Mbps Full duplex)を得るためには、前述の「100Base-TX Full duplex」を選択する必要がありますのでご注意ください。

接続先機器が Half duplex (半二重) のみに対応している場合、本製品を Full duplex (全二重) に設定すると ネットワーク障害の原因となりますので避けてください。この場合は、接続先機器と同様に Half duplex に固定するか、Auto-Negotiation を選択してください。

#### DMA Burst Length

デフォルトは「16 DWORDS」です。この値は、デフォルト値のままお使い頂くことを推奨いたします。

#### Flow Control

デフォルトは「Disabled (無効)」です。Flow Control 機能を使用する場合は、この値を「Enabled (有効)」に設定してください。特別、Flow Control を必要としない場合は、デフォルトの「Disabled (無効)」のままお使い頂くことを推奨いたします。

## 4.3 ドライバーの削除

ドライバーの再インストールを行う場合、ドライバーを一旦削除してから行います。ドライバーのインストールに失敗した場合も、この手順にならない、間違ってインストールされたドライバーを削除してから、あらためてインストール作業を行います。(「4.5 ドライバーのトラブル」もご覧ください。)

ドライバーを削除する手順は以下の通りです。

- (1) 「コントロールパネル」 「システム」 「デバイスマネージャ」タブと進み、「ネットワークアダプタ」の下から項目「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」を選択し、「削除 (E)」をクリックしてください。



図 4.3-1 ドライバーの削除

- (2) 下のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。



図 4.3-2 デバイス削除の確認

- (3) 本製品のアイコンが消えていることを確認し、「システムのプロパティ」の「OK」（または「閉じる」）ボタンをクリックしてください。
- (4) 以上でドライバーの削除は終了です。ドライバーの再インストールを行う場合は、コンピュータを再起動してください。

## 4.4 ドライバーの再インストール

ドライバーを再インストールする手順は以下の通りです。

- (1) 「4.3 ドライバーの削除」の手順にしたがい本製品のドライバーを削除します。

- (2) 「4.1 ドライバーのインストール」の手順にしたがい本製品のドライバーをインストールします。

## 4.5 ドライバーのトラブル

ここではドライバーのインストールに伴うトラブルの代表的な例と その対処法について説明します。

### 4.5.1 デバイスマネージャで正常に認識されない

「4.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認」にしたがって、インストールの確認を行った際に「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」アイコンの表示が以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗しています。

「ネットワークアダプタ」の項目がない

「その他のデバイス」「不明なデバイス」の下にアイコンが表示されている



この場合、以下のような操作を行ったことが考えられます。

- ドライバーインストールの作業中に行われる netapi.dllなどの Windows95関連のファイルのインストールをキャンセルしてしまった。
- 図 4.1.3-6(COLPCIX4.sysの要求)において「キャンセル」をクリックした。

アイコンに「!」「?」マークがある

このようなときは、ドライバーを一旦削除し、再インストールを行います。以下の手順を実行してください。

- (1) 不正にインストールされた「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」アイコンを選択し、「削除(E)」ボタンをクリックしてください。
- (2) 「4.3 ドライバーの削除」の手順(2)以降を実行してください。
- (3) 「4.1 ドライバーのインストール」の手順にしたがい本製品のドライバーをインストールします。

### 4.5.2 デバイスマネージャで「x」マークが付く

アイコンに「x」マークがある場合は、デバイスが「使用不可」に設定されています。以下の手順にしたがって使用許可の状態に切り替えてください。

- (1) 「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」を選択(反転表示)し、「プロパティ」ボタンをクリックし、「情報」タブを表示します(図 4.2.1-2, 図 4.2.1-3)。
- (2) Version 950 または A の場合、「Original Configuration」にチェック「✓」を付けてください。

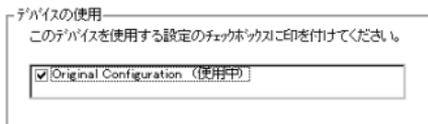


図 4.5.2-1 デバイスの使用許可の設定 (Version 950/A)

- (3) Version B または C の場合、「このハードウェア環境で使用不可にする」のチェック「✓」を外し、「すべてのハードウェア環境で使用する」にチェック「✓」を付けてください。

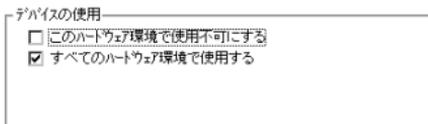


図 4.5.2-2 デバイスの使用許可の切り替え (Version B/C)

### 4.5.3 リソース値重複の回避

前述の手順にしたがってドライバーの削除および再インストール作業を行っても、なおアイコンに「?」、「!」マークが付いている場合は、他の拡張アダプターとリソースの値が重複している可能性があります。

特に、Plug & Play に対応していない他の拡張アダプターを本製品とともに使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値を Windows95 に予め登録(「予約」と呼びます)し、その値が他の Plug & Play 対応デバイス(本製品を含む)によって使用されないようにしておく、値の重複を回避できます。



コンピュータ機種によっては、「BIOS」に組み込まれている PCI や ISA の設定ユーティリティを使用して、リソースの重複を回避するものがあります。詳細は、ご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

- (1) Plug & Play 非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値(インタラプト(IRQ)、I/O ベースアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス(DMA))を調

べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧ください。または、メーカーにお問い合わせください。

- (2) 「コントロールパネル」 「システム」 「デバイスマネージャ」タブと進みます。
- (3) 「デバイスマネージャ」タブで「コンピュータ」を選択し、「プロパティ」 「リソースの予約」タブと進みます。
- (4) 該当する項目を選択し、「追加」ボタンをクリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。

#### 4.5.4 ご使用コンピュータの確認

ご使用コンピュータの OS が Windows95 のプリインストールタイプでない場合 (Windows3.1 からアップグレードされた場合など) は、ご使用のコンピュータ本体が Windows95 の plug & play 機能に対応していない可能性があります。「4.5 ドライバのトラブル」や「8 ネットワークのトラブル」(p.97) の手順で操作しても正常に動作しない場合は、ご使用コンピュータメーカーにお問い合わせください。

# 5 Windows NT Ver. 4.0

本製品のドライバーを Windows NT Ver. 4.0 上にインストールする手順を説明します。

本書では、下記の条件を仮定したインストール例を示します。

- ネットワークアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境は、全くインストールされておらずこれからインストールします。
- Windows NT Ver. 4.0 Workstation を使用し、Windows NT が要求する問い合わせに対して、基本的にデフォルトで答えます。

## 5.1 インストール時のご注意

本製品のインストールを始める前に、以下のことをご確認ください。各操作・設定の手順については Windows NT のマニュアル・ヘルプをご覧ください。



注意

Windows NT のハードウェア互換性リスト( Windows NT パッケージに同梱されています) に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。



注意

NEC PC98-NX にインストールされた Windows NT のもとで本製品をご使用になる場合、NEC によって保証されていないインストール環境でのご使用は、お客様の責任において行ってください。それらの環境で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。



注意

本取扱説明書に記載した内容は一例であり、お客様の使用するコンピュータやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。予めご了承ください。



注意

本製品のインストールを Windows NT のインストールと同時に行うことは避けてください。必ず、Windows NT のインストールを完了したあとで、本製品のインストールを行ってください。Windows NT は Plug & Play をサポートしていないため、Windows NT と本製品のインストールを同時に行くと、Windows NT のインストール中に本製品が使用するハードウェアリソースが他のデバイスと重複するおそれがあり、重複の回避に手間取ることがあります。

サービスパックについて



注意

**重要** : Windows NT のサービスパックをインストールしているか確認してください。「スタート」「プログラム」「管理ツール(共通)」「Windows NT 診断プログラム」と進むと、「バージョン」タブが表示されます。表示が「Service Pack 2」以上であればサービスパックをインストールしていますので、ドライバーのインストール後、コンピュー

タを再起動する前に必ずサービスパックの再インストールをしてください。サービスパックをインストールせずにコンピュータを再起動すると、WindowsNT が起動できなくなることがあります。

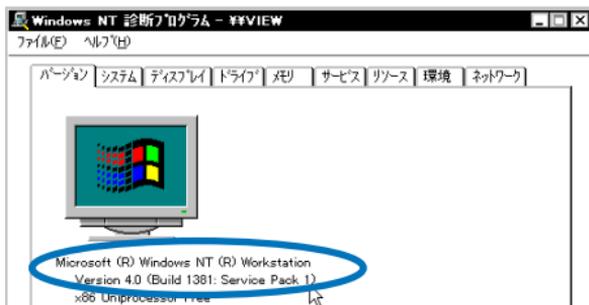


図 5.1-1 サービスパックの確認

## 5.2 ドライバーのインストール

### 5.2.1 用意するもの

- FEther PCI-TXL アダプター本体、UTP ケーブルなど
- コンピュータ (Windows NT 4.0 インストール済み)
- Windows NT の CD-ROM
- FEther PCI-TXL ドライバーディスク (本製品に付属)
- Windows NT サービスパック (サービスパックをインストールしている場合のみ)

### 5.2.2 新規インストール

- (1) 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」と進み、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。



図 5.2.2-1 「ネットワーク」(コントロールパネル)

- (2) 下のダイアログが表示されます。「今すぐインストールしますか?」の問いに対して、「はい(Y)」をクリックしてください。 <sup>1</sup>

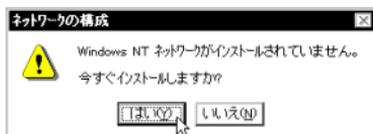


図 5.2.2-2 ネットワークのインストール開始

- (3) 「ネットワークセットアップウィザード」ダイアログが表示されます。「ネットワークに接続(W)」にチェックマークを付け、「次へ(N)」をクリックしてください。

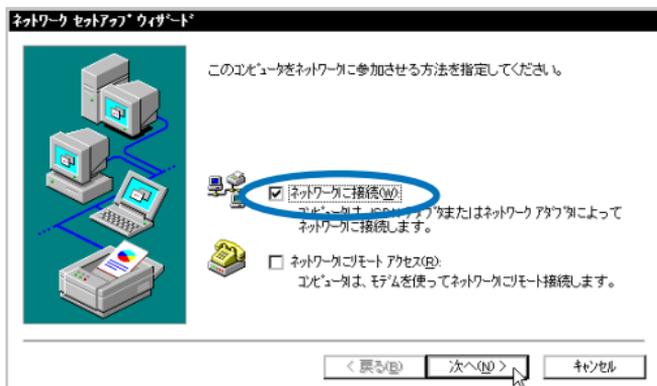


図 5.2.2-3 ネットワークセットアップウィザードの起動

- (4) 以下のダイアログが表示されたら、「一覧から選択(S) ...」をクリックしてください。

1. 「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない(D)」を選択したとき、このダイアログが表示されます。このダイアログではなく「ネットワーク」パネルが表示された場合は、既にネットワークに関する Windows NT ファイルがインストールされています。この場合は「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブ「追加」と進むと、手順(5)の図 5.2.2-5 が表示され、本製品のためのインストールが始まります。



図 5.2.2-4 ネットワークアダプタは一覧から選択

- (5) 「ネットワークアダプタの選択」ダイアログが表示されます。「ディスク使用 (H) ...」をクリックしてください。

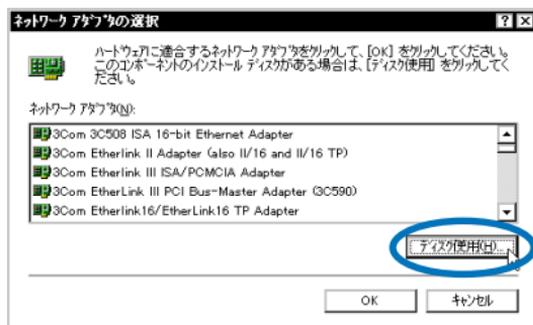


図 5.2.2-5 ネットワークアダプタの選択にディスクを使用

- (6) 次のダイアログが表示されますので、本製品のドライバーディスクをフロッピードライブに挿入し、パス「A:¥windows.nt」を入力し、「OK」をクリックしてください。

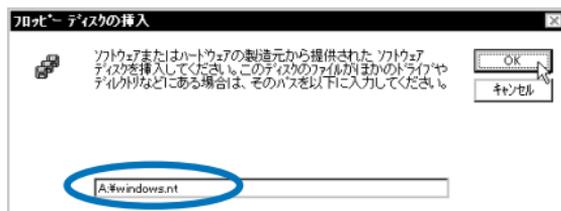


図 5.2.2-6 ドライバーの所在の指定

- (7) 次のダイアログで、「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」を選択し、「OK」をクリックしてください。



図 5.2.2-7 選択するドライバーを確認

- (8) 「ネットワークアダプタ (A) :」の「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」にチェックマークを付け、「次へ (N) :」をクリックしてください。

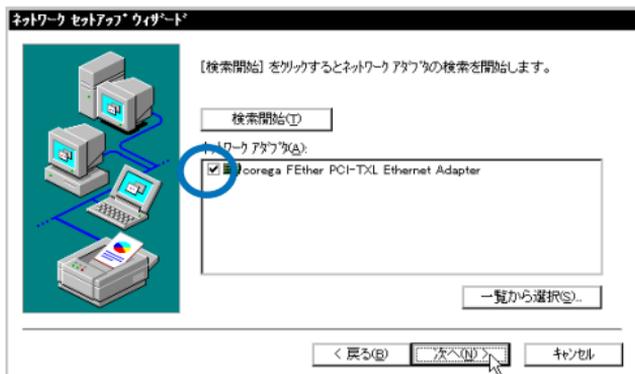


図 5.2.2-8 ドライバーファイルの検索開始

- (9) 使用するネットワークプロトコルにチェックマークを付け、「次へ (N) :」をクリックしてください。(詳細はシステム管理者にご確認ください。)ここでは、「TCP/IP プロトコル」のみをチェックすると仮定します。



図 5.2.2-9 使用するネットワークプロトコルをチェック

- (10) 使用するサービスを設定し、「次へ(N)」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなサービスが使用されているかは、システム管理者にご確認ください。



図 5.2.2-10 使用するサービスをチェック

- (11) メッセージを確認して、「次へ(N)」をクリックしてください。



図 5.2.2-11 ネットワークコンポーネントのインストール

- (12) Windows NT の CD-ROM をドライブに挿入し、「D:¥i386」と入力してください。

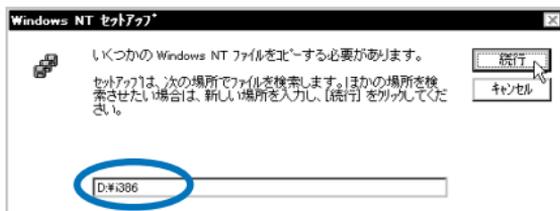


図 5.2.2-12 WindowsNT ファイルの所在の指定

- (13) 本製品の設定ダイアログが出ますので、Connection Type を選択してください。Connection Type について詳しくは、「5.3.2 ドライバーの設定」を参照してください。

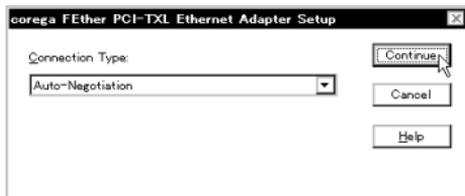


図 5.2.2-13 本製品の設定 (例)

- (14) ドライバーおよび Windows ファイルのコピーが始まります。手順(9)で「TCP/IP プロトコル」を選択した場合はここで「DHCP を使用するか？」を質問されます。ここでは、デフォルトである「いいえ (N)」をクリックすると仮定します。

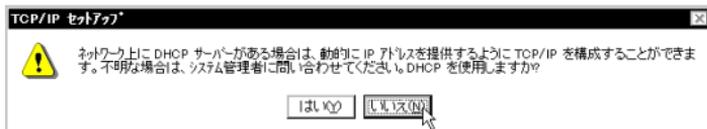


図 5.2.2-14 DHCP メッセージ

- (15) (14) で「いいえ」を選択した場合は「TCP/IP のプロパティ」として IP アドレスなどの値を設定します。



以下の説明では、具体的なアドレス、名称を使用しますが、これらはお客様の環境に合わせるものを入力してください。

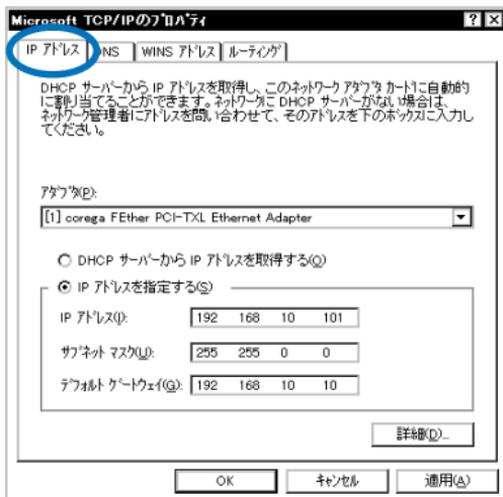


図 5.2.2-15 TCP/IP の設定（「IP アドレス」タブ）

上図（図 5.2.2-15）は、あくまでも設定例です。IP アドレスの設定について詳しくはシステム管理者にご確認ください。

- (16) DNS（Domain Name System）の設定をします。「DNS」のタブをクリックしてください。下に入力例を示します。ここでは、ホスト名として「PC1」を仮定しています。



図 5.2.2-16 TCP/IP の設定 (「DNS」タブ)

(17) 続いて、「WINS(Windows Internet Name Service)アドレス」の設定を行います。

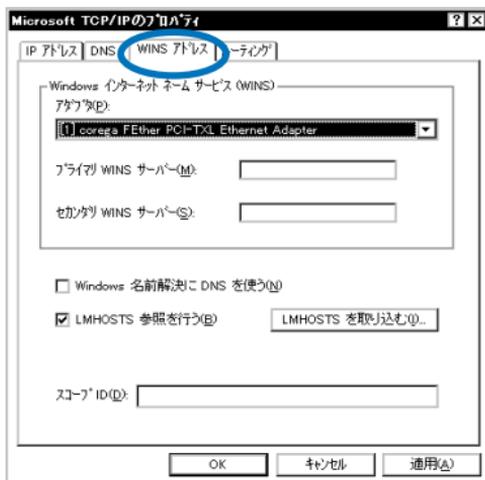


図 5.2.2-17 TCP/IP の設定 (「WINS アドレス」タブ)

必要であれば、さらに「ルーティング」の設定を行い、最後に「OK」をクリックしてください。これらの設定の詳細についてはシステム管理者にご確認ください。



Windows NT Serverをご使用の場合は「DHCP リレー」タブがあります。DHCPリレーの詳細はWindows NT Serverのマニュアルまたはオンラインヘルプをご覧ください。

(18) 「次へ (N)」をクリックしてください。



図 5.2.2-18 バインドの確認

(19) 「次へ (N)」をクリックしてください。



図 5.2.2-19 ネットワーク起動の確認

(20) 「次へ (N)」をクリックしてください。ここでは「ワークグループ (W)」をそのまま使用すると仮定します。詳細はシステム管理者にご確認ください。



図 5.2.2-20 ワークグループなどの設定

(21) 「完了」をクリックしてください。



図 5.2.2-21 インストールの完了

Windows NT のサービスパックをインストールしている場合、「いいえ (N)」をクリックし、サービスパックをインストールした後にコンピュータを再起動してください。

サービスパックをインストールしていない場合、「はい (Y)」をクリックしてコンピュータを再起動してください。

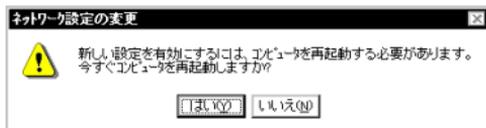


図 5.2.2-22 再起動の確認



注意

重要：本製品のドライバーをインストールすると、サービスパックによってインストールされていた WindowsNT の最新のファイルが、CD-ROM の古いバージョンのファイルによって上書きされます。サービスパックをインストールしている場合、コンピュータを再起動する前に必ずサービスパックの再インストールをしてください。サービスパックをインストールせずにコンピュータを再起動すると、WindowsNT が起動できなくなることがあります。

## 5.3 インストールの確認とアダプターの設定

### 5.3.1 リソース値の確認

コンピュータを再起動すると、本製品に対してリソース（I/O アドレス、インタラプト）が割り当てられます。これらの値は PCI ローカルバス仕様により、コンピュータによって自動的に設定され、管理されます。割り当てられた値を確認するには Windows NT 診断プログラムをご使用ください。

「スタート」「プログラム」「管理ツール（共通）」「Windows NT 診断プログラム」と進み、「リソース」タブをクリックすると、本デバイス「COLPCIX4」に割り当てられたリソースを確認することができます。

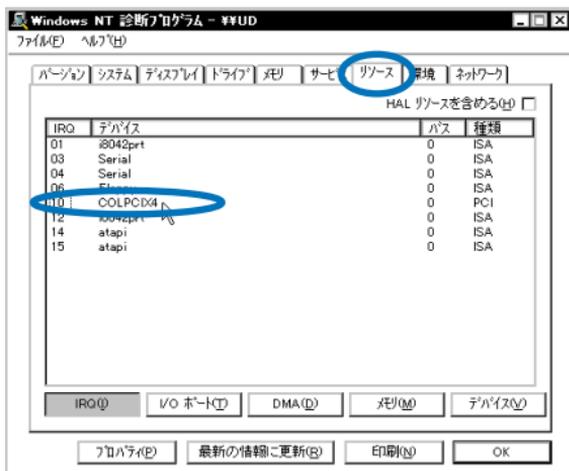


図 5.3.1-1 リソースの確認（IRQ）

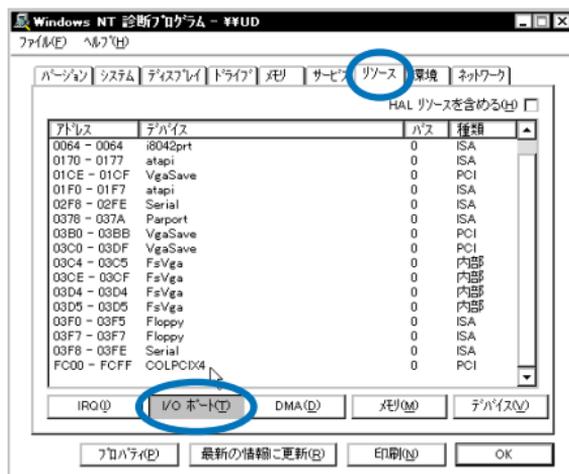


図 5.3.1-2 リソースの確認 (I/O ポート)



注意

コンピュータに予め組み込まれているデバイスの中には「Windows NT 診断プログラム」上に表示されないものもあります。コンピュータのマニュアルと「Windows NT 診断プログラム」の2つを用いて確認を行ってください。

## 5.3.2 ドライバーの設定

ここでは、本製品のネットワーク通信モードに関する設定を行います。

- (1) 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックし、「アダプタ」タブをクリックしてください。

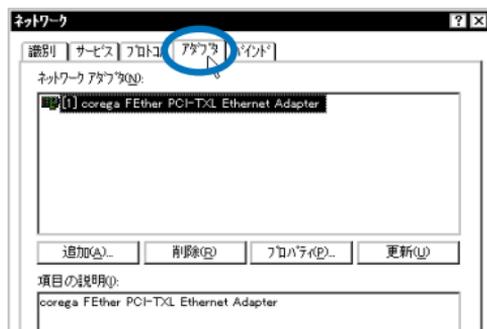


図 5.3.2-1 ネットワーク (「アダプタ」タブ)

- (2) 「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」をダブルクリックしてください。本製品の設定ダイアログが表示されます。

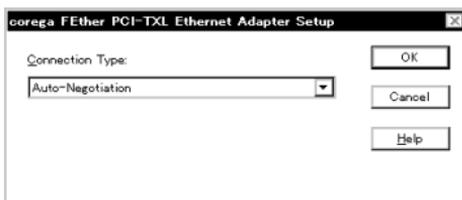


図 5.3.2-2 ネットワークメディアの設定

「Connection Type」リストからご使用の環境に合ったものを選択します。詳細はシステム管理者にご確認ください。

各項目の意味は以下の通りです。

#### Connection Type

- 100Base-TX Full\_duplex  
100Mbps の Full duplex (全二重) モードに設定します。
- 100Base-TX Half\_Duplex  
100Mbps の Half duplex (半二重) モードに設定します。
- 10Base-T Full\_Duplex  
10Mbps の Full duplex (全二重) モードに設定します。
- 10Base-T Half\_Duplex  
10Mbps の Half duplex (半二重) モードに設定します。
- Auto-Negotiation (デフォルト)  
Auto-negotiation を有効 (Enable) に設定します。この項目を選択した場合、接続先機器の仕様によって動作は以下のように変わりますのでご注意ください。

接続先機器が Auto-negotiation をサポートしている場合

可能な最高の速度 (100/10 Mbps) およびモード (Full/Half duplex) となります。

接続先機器が Auto-negotiation をサポートしていない場合

接続先機器 (ハブなど) が Auto-negotiation 機能をサポートしていない場合にこの「Auto-Negotiation」を選択すると、ネットワークメディアは通信速度 (100/10 Mbps) のみ自動的に検出し、検出された速度の Half duplex モードとなります。したがって、接続先機器が 100Mbps の Full duplex モードをサポートしていても Auto-negotiation 機能をサポートしていない場合に最高速度 (100Mbps Full duplex) を得

するためには、前述の「100Base-TX Full\_duplex」を選択する必要がありますのでご注意ください。

接続先機器が Half duplex（半二重）のみに対応している場合、本製品を Full duplex（全二重）に設定すると、ネットワーク障害の原因となりますので避けてください。この場合は、接続先機器と同様に Half duplex に固定するか、Auto-Negotiation を選択してください。

## 5.4 本製品を使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品を使用しないとき、例えば UTP ケーブルを本製品から外しているなどの場合は、ドライバーをアンロードしてください。ドライバーがロードされたままにしておくと、Windows NT はこれらの現象をネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。この現象はドライバーをアンロードする（バインドしない）ことによって回避できます。

- (1) 「コントロールパネル」 「ネットワーク」 「バインド」と進みます。「バインドの表示」で「すべてのアダプタ」を選択してください。
- (2) 本製品のアイコンを選択し、「無効」をクリックしてください。本製品のアイコンが無効（) アイコンに変わります。使用を再開する場合は、本製品のアイコンを選択し、「有効」をクリックします。

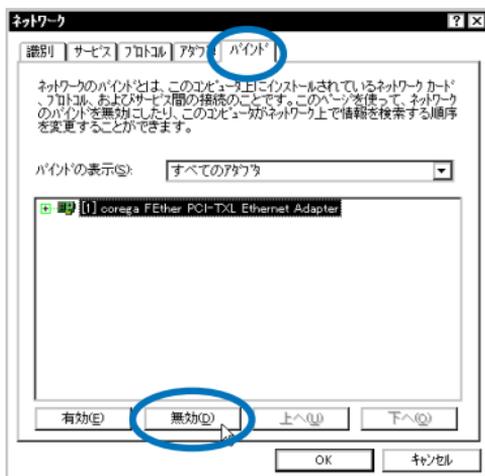


図 5.4-1 バインドの無効化

## 5.5 ドライバーの削除

本製品の登録内容を削除し、再びインストールする手順は以下のとおりです。ただし、ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません（一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます）。したがって、本製品を再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

- (1) 「スタート」「設定」「コントロールパネル」「ネットワーク」と進み、「ネットワーク」の「アダプタ」タブをクリックしてください（図 5.3.2-1）。
- (2) 「ネットワークアダプタ (N) :」で「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」を選択し、「削除 (R)」をクリックしてください。



図 5.5-1 ネットワークアダプタを削除

- (3) フロッピーディスクが入っている場合は取り出して、「はい」をクリックし、コンピュータを再起動します。

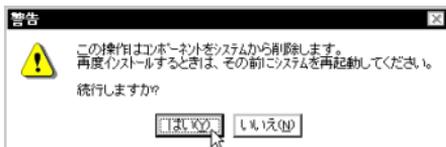


図 5.5-2 削除の確認

## 5.6 ドライバーの再インストール

ドライバーを再インストールする手順は以下の通りです。

- (1) 「5.5 ドライバーの削除」の手順にしたがい本製品のドライバーを削除します。
- (2) 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックし、「アダプタ」タブで「追加 ..」ボタンをクリックしてください。「5.2.2 新規インストール」の手順 (5) から再開することになります。

# 6 Windows 2000

本製品のドライバーを Windows 2000 上にインストールする手順を説明します。



注意

ここに挙げる手順は一例です。お客様の環境によっては、手順が異なることがあります。

## 6.1 ドライバーのインストール

アップデートインストールについて



注意

Windows2000 を Windows95/98 からアップデートインストールされる場合は、本製品のドライバーを削除し、本製品をパソコンから取り外した状態でアップデートインストールしてください。

### 6.1.1 用意するもの

- FEther PCI-TXL 本体、UTP ケーブルなど
- コンピュータ (Windows 2000 インストール済み)
- FEther PCI-TXL ドライバーディスク (本製品に付属)



注意

ハードディスク内のデータは、必ずフロッピーディスク等にバックアップをとった後で、ドライバーのインストールを開始してください。特に重要なデータについては、必ずバックアップをとられることをお勧めします。

また、いかなる場合でも、データが消失または破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

### 6.1.2 新規インストール

本製品のドライバーを Windows 2000 に新規インストールする手順を説明します。ここでは、今までにネットワークアダプター用ドライバーをインストールしたことがなく、今回初めて本製品のドライバーをインストールする場合の手順について説明します。



注意

以下の手順を実行するには、Administrators グループ所属のユーザー名でログオンしてください。

- (1) 本製品をコンピュータの拡張スロットに取り付けた状態で、コンピュータの電源をオンにし、Windows 2000 を起動してください。

- (2) Windows 2000 によって本製品が検知され、「新しいハードウェアが見つかりました」という表示の後に、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。「次へ」をクリックしてください。

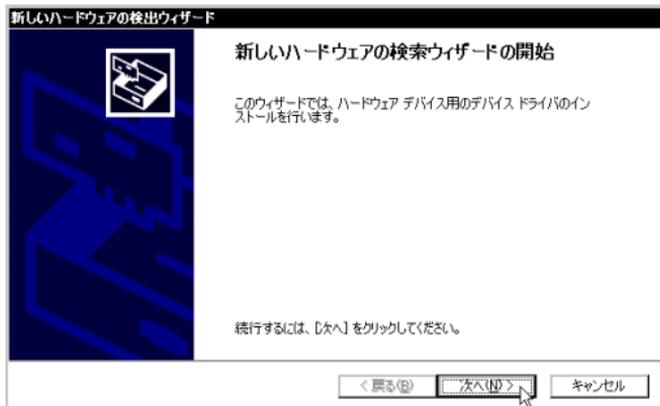


図 6.1.2-1 「新しいハードウェアの検出ウィザード」の起動

- (3) 「デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

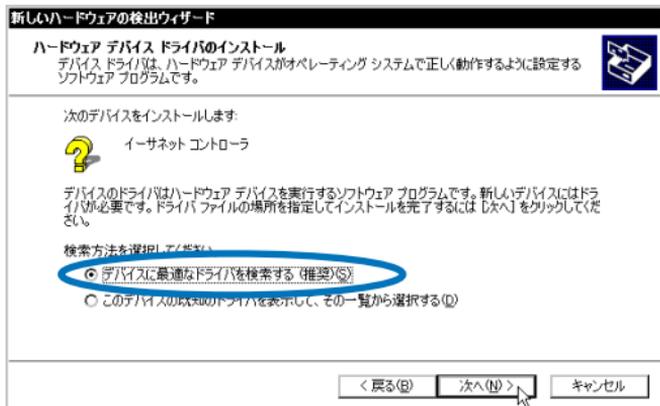


図 6.1.2-2 検索方法の選択

- (4) 「場所を指定」を選択し、「次へ」をクリックします。

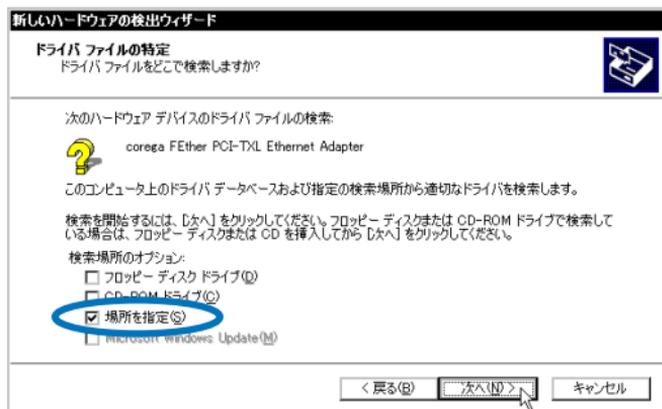


図 6.1.2-3 「場所を指定」をチェック「✓」

- (5) 本製品付属のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「製造元のファイルのコピー元」に「A:\win2000」と入力して、「OK」をクリックしてください。

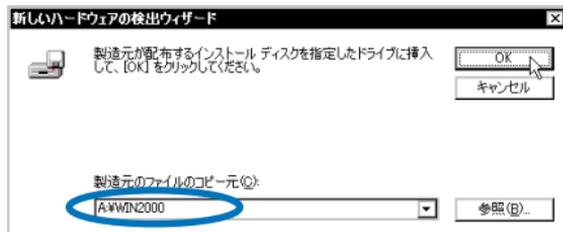


図 6.1.2-4 ドライバーのパス (所在) の指定

- (6) 次のダイアログで、ハードウェアデバイスの名称が「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」となっていることを確認し、「次へ」をクリックしてください。

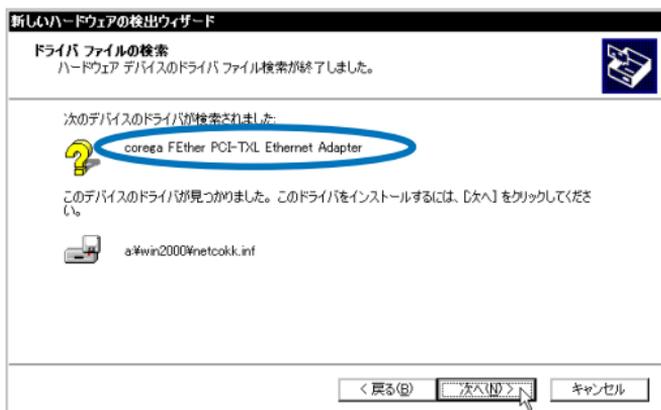


図 6.1.2-5 ハードウェアデバイス名の確認

- (7) 下図のようなダイアログが表示された場合は「はい」をクリックします。Microsoft デジタル署名はありませんが、本製品は正常に動作します。

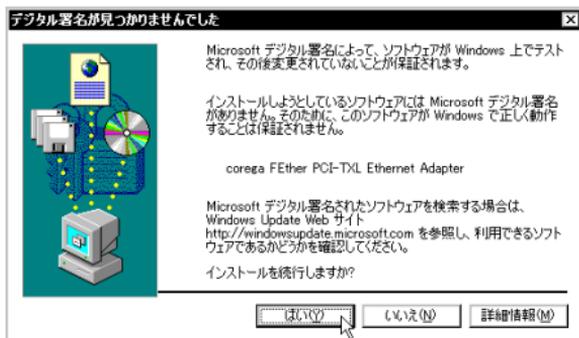


図 6.1.2-6 デジタル署名の確認

- (8) 「このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。」と表示されますので、「完了」をクリックしてください。

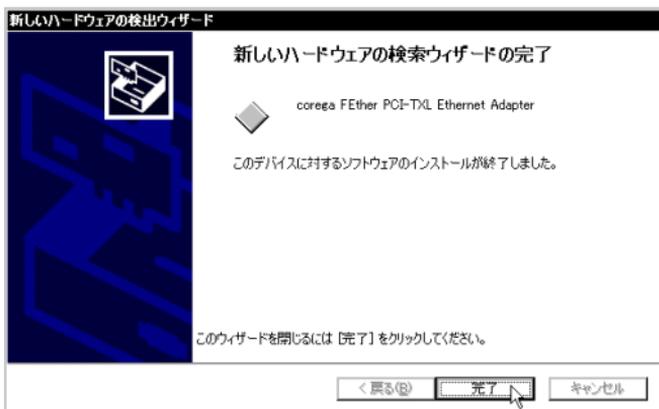


図 6.1.2-7 インストールの完了

- (9) 以上でドライバーのインストールは終了です。引き続き「6.2 インストールの確認とアダプターの設定」に進みください。

## 6.2 インストールの確認とアダプターの設定

はじめにドライバーのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

### 6.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認

- (1) 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。



図 6.2.1-1 「コントロールパネル」 - 「システム」アイコン

- (2) 「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」をクリックします。

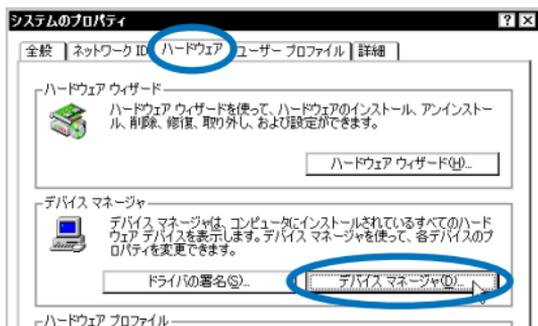


図 6.2.1-2 「ハードウェア」タブ「デバイスマネージャ」

- (3) 「ネットワークアダプタ」アイコンの左の「+」をクリックしてください。インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」が表示されます。



図 6.2.1-3 デバイスマネージャ

本製品のアイコンに「!」「?」などのマークが付いていたりあるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、「6.6.1 本製品を認識しない」をご覧ください。

- (4) 「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」をダブルクリックしてください。「デバイスの状態」欄に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認してください。

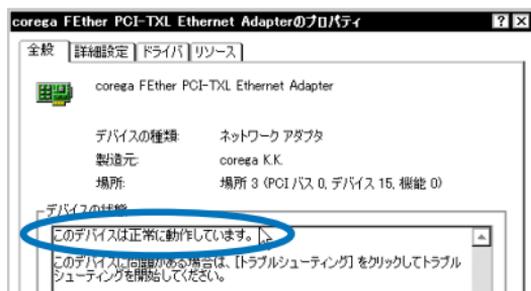


図 6.2.1-4 デバイスの状態

## 6.2.2 ネットワークの設定

「コントロールパネル」の「ネットワークとダイヤルアップ接続」で、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。インターネットへのアクセスを行うためには（WWW ブラウザーなどをご使用になるためには）、TCP/IP プロトコルが必須です。ネットワーク接続の設定に関しては、「7 ネットワークの設定」（p.85）を参照してください。設定に関する詳細は、お客様の環境におけるシステム管理者にご相談ください。

## 6.2.3 ドライバーの設定

ここでは、本製品のネットワーク通信モードに関する設定を行います。

- (1) 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」をクリックします（図 6.2.1-3）。
- (2) 「デバイスマネージャ」で「ネットワークアダプタ」 「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」 「プロパティ」 「詳細設定」タブと進み、ネットワーク通信モードの設定を行います。「値（V）」リストからご使用の環境に合ったものを選択します。詳細はシステム管理者にご確認ください。

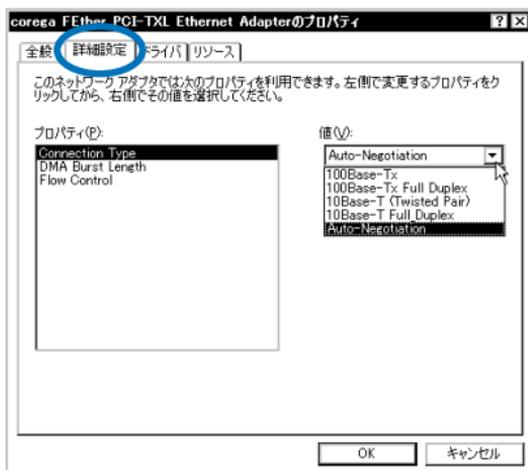


図 6.2.3-1 詳細設定

各項目の意味は以下の通りです。

#### Connection Type

- 100Base-TX  
100Mbps の Half duplex (半二重) モードに設定します。
- 100Base-TX Full duplex  
100Mbps の Full duplex (全二重) モードに設定します。
- 10Base-T (Twist Pair)  
10Mbps の Half duplex (半二重) モードに設定します。
- 10Base-T Full Duplex  
10Mbps の Full duplex (全二重) モードに設定します。
- Auto-Negotiation (デフォルト)  
Auto-negotiation を有効 (Enable) に設定します。この項目を選択した場合、接続先機器の仕様によって動作は以下のように変わりますのでご注意ください。

接続先機器が Auto-negotiation をサポートしている場合

可能な最高の速度 (100/10 Mbps) およびモード (Full/Half duplex) となります。

接続先機器が Auto-negotiation をサポートしていない場合

接続先機器（ハブなど）が Auto-negotiation 機能をサポートしていない場合にこの「Auto-Negotiation」を選択すると、ネットワークメディアは通信速度（100/10 Mbps）のみ自動的に検出し、検出された速度の Half duplex モードとなります。したがって、接続先機器が 100Mbps の Full duplex モードをサポートしていても Auto-negotiation 機能をサポートしていない場合に最高速度（100Mbps Full duplex）を得るためには、前述の「100Base-TX Full duplex」を選択する必要がありますのでご注意ください。

接続先機器が Half duplex（半二重）のみに対応している場合、本製品を Full duplex（全二重）に設定すると、ネットワーク障害の原因となりますので避けてください。この場合は、接続先機器と同様に Half duplex に固定するか、Auto-Negotiation を選択してください。

#### DMA Burst Length

デフォルトは「16 DWORDS」です。この値は、デフォルト値のままお使い頂くことを推奨いたします。

#### Flow Control

デフォルトは「Disabled（無効）」です。Flow Control 機能を使用する場合は、この値を「Enabled（有効）」に設定してください。特別、Flow Control を必要としない場合は、デフォルトの「Disabled（無効）」のままお使い頂くことを推奨いたします。

## 6.3 ドライバの更新

ドライバーの更新は、弊社のホームページ（<http://www.corega.co.jp/>）などから、本製品用の最新のドライバーを入手した場合に実行します。



注意

以下の手順を実行するには、Administrators グループ所属のユーザー名でログオンしてください。

- (1) 「コントロールパネル」 「システム」と進み、「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。「ネットワークアダプタ」の「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」をダブルクリックしてください（図 6.2.1-3 参照）。
- (2) 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックしてください。

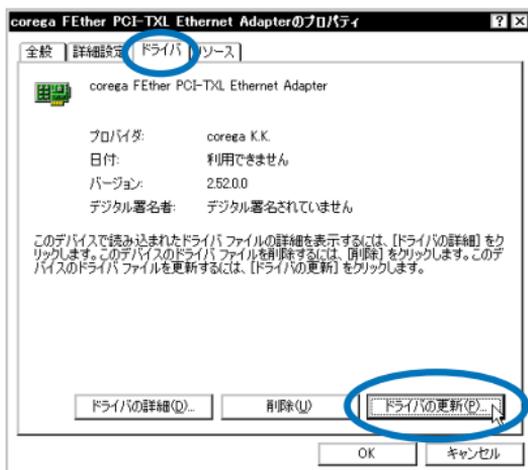


図 6.3-1 「ドライバの更新」ボタン

- (3) 「デバイスドライバのアップグレードウィザード」が表示されます。「次へ」をクリックしてください。

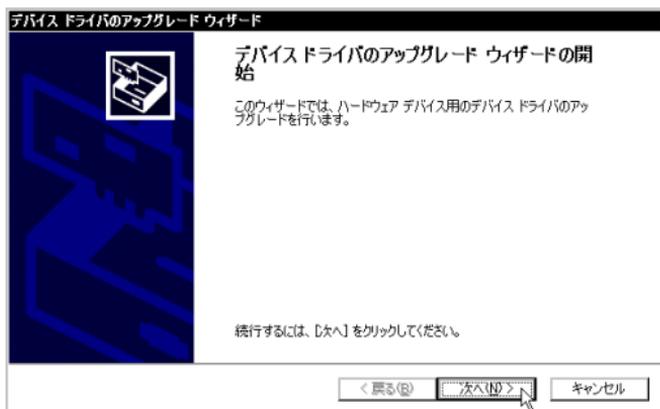


図 6.3-2 「デバイスドライバのアップグレードウィザード」の起動

- (4) 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

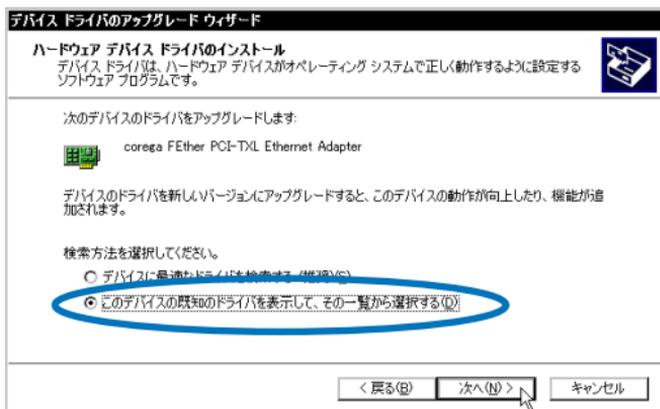


図 6.3-3 検索方法の選択

- (5) 次のダイアログが表示されたら、「ディスク使用」をクリックします。

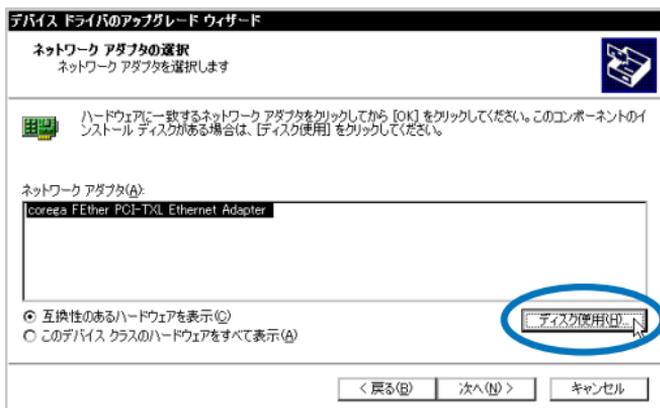


図 6.3-4 ドライバの更新には、ディスクを使用

- (6) 本製品の最新のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「製造元のファイルのコピー元」に「A:¥win2000」と入力して、「OK」をクリックしてください。

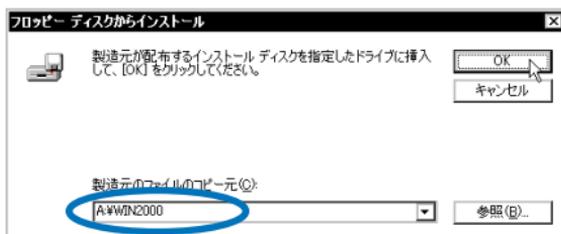


図 6.3-5 ドライバーの所在の指定

- (7) Windows 2000 によってドライバーディスクが検索され、次のダイアログが表示されます。「次へ」をクリックしてください。



図 6.3-6 ネットワークアダプタの選択

- (8) 次のダイアログで、ハードウェアデバイスの名称が「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」となっていることを確認し、「次へ」をクリックしてください。

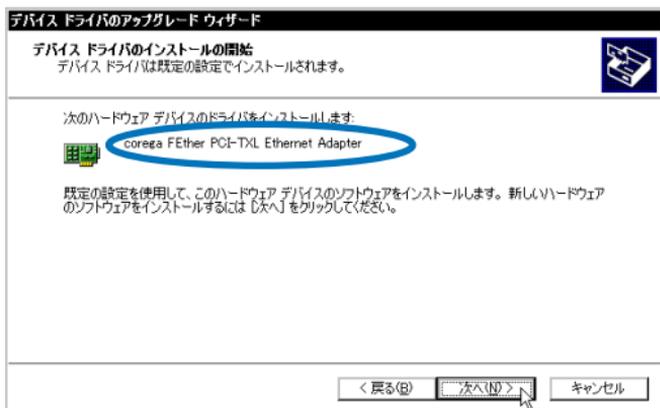


図 6.3-7 ドライバーの確認

- (9) 下図のようなダイアログが表示された場合は「はい」をクリックします。Microsoft デジタル署名はありませんが、本製品は正常に動作します。

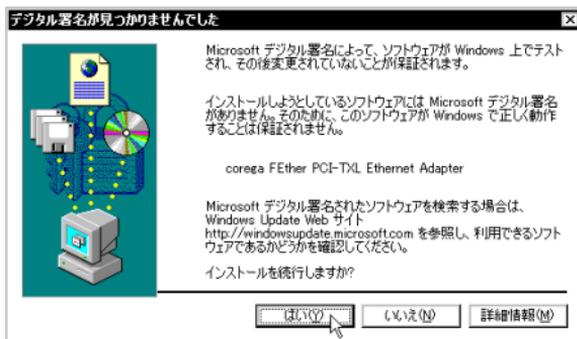


図 6.3-8 デジタル署名の確認

- (10) 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されます。「完了」をクリックしてください。以上でドライバーの更新は終了です。

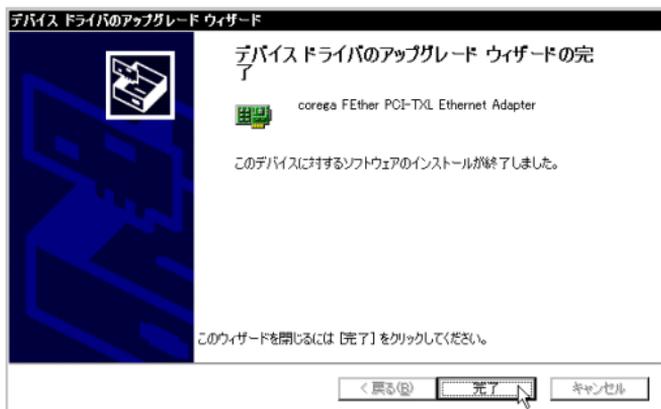


図 6.3-9 更新の完了

## 6.4 ドライバーの再インストール

ドライバーの再インストールを行う場合は、ドライバーをいったん削除してから行います。ドライバーのインストールに失敗した場合も、間違っってインストールされたドライバーをまず削除してから再びインストール作業を行います。



以下の手順を実行するには、Administrators グループ所属のユーザー名でログオンしてください。

注意

- (1) 「6.6.1 本製品を認識しない」を参考にドライバーを削除してください。
- (2) 「6.1.2 新規インストール」の手順にしたがい、本製品のドライバーをインストールします。

## 6.5 本製品を一時的に使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品を使用しないとき、たとえば UTP ケーブルを本製品から外すような場合は、下記の手順にしたがって本製品のドライバーを無効にしてください。



以下の手順を実行するには、Administrators グループ所属のユーザー名でログオンしてください。

注意

- (1) 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。

- (2) 「システムのプロパティ」で「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。
- (3) 「ネットワークアダプタ」の下の「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」を右クリック<sup>1</sup>し、メニューより「無効」をクリックしてください<sup>2</sup>。



図 6.5-1 デバイスマネージャで無効を選択

- (4) 「はい」をクリックします。



図 6.5-2 「はい」をクリック

- (5) 「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」のアイコンに「x」が付き、ドライバーが無効になります。



図 6.5-3 無効化されたデバイス

1. 「マウス」の「右ボタン」を1回押す(クリックする)操作です。
2. 「コントロールパネル」 「ネットワークとダイヤルアップ接続」の「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューより「無効にする」を選択しても同じ結果となります。

- (6) 再び、本製品を使用するときは、「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」を右クリックし、メニューより「有効」をクリックしてください。



図 6.5-4 有効化

## 6.6 ドライバーのトラブル

### 6.6.1 本製品を認識しない

「6.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認」にしたがってインストールの確認を行った際に、「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」アイコンの表示が以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗しています。

- 「ネットワークアダプタ」の項目がない
- 「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入ってしまった
- 本製品のアイコンに「!」「?」マークが付く

このようなときは、ドライバーを一旦削除し、再インストールを行います。以下の手順を実行してください。



注意

以下の手順を実行するには、Administrators グループ所属のユーザー名でログオンしてください。

- (1) 不正にインストールされた「corega FEther PCI-TXL Ethernet Adapter」アイコンを右クリックし、メニューより「削除」をクリックします。



図 6.6.1-1 デバイスマネージャからの削除

- (2) 次のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。



図 6.6.1-2 デバイス削除の確認

- (3) 「本製品のアイコンが消えていることを確認してください。
- (4) Windows 2000 を再起動（「スタート」「シャットダウン」「再起動」「OK」）します。
- (5) 「6.1.2 新規インストール」の手順を参考にし、本製品のドライバーをインストールします。



注意

一度でも本製品のドライバーのインストールを行うと、ドライバーに関する情報がコンピュータに保存されます。そのため、ドライバーの削除を行った後の「ドライバーの新規インストール」手順では、一部のダイアログが表示されないことがあります。表示される指示にしたがって操作してください。

## 6.6.2 「近くのコンピュータ」が表示されない

「マイネットワーク」の「近くのコンピュータ」フォルダに他のコンピュータが表示されない場合は、コンピュータの識別情報（ネットワーク ID）が適切に設定されているかどうかを確認してください。

- (1) 「Administrator」権限でログオンしてください。
- (2) 「スタート」「設定」「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。
- (3) 「ネットワーク ID」タブを選択し、「プロパティ」をクリックしてください。

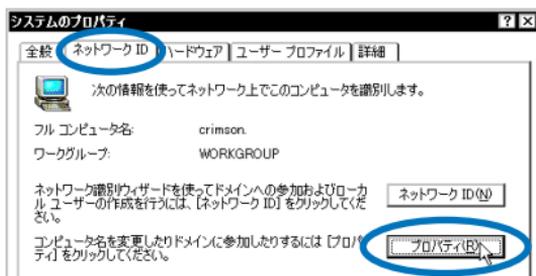


図 6.6.2-1 「ネットワーク ID」タブ

- (4) 「コンピュータ名」、「次のメンバ」が正しく設定されているか確認してください。



図 6.6.2-2 識別の変更

### 6.6.3 ご使用コンピュータの確認

ご使用コンピュータの OS が Windows 2000 のプリインストールタイプでない場合、(Windows 3.1/95/98 からアップグレードされた場合など)は、ご使用のコンピュータ本体が Windows 2000 の plug & play 機能に対応していない可能性があります。「6.6 ドライバのトラブル」や「8 ネットワークのトラブル」(p.97)の手順で操作しても正常に動作しない場合は、ご使用コンピュータメーカーにお問い合わせください。

## 7 ネットワークの設定

---

ここでは、ネットワーク接続をするための設定例について説明します。各 OS の「インストールの確認とアダプターの設定」を参照し、LAN アダプターの設定が正常であることを確認した後で、ネットワークを利用したデータの送受信を行ってみましょう。データの送受信をするためには、各コンピュータについて設定が必要になります。

### 7.1 Windows 98/95

#### 7.1.1 ネットワーク接続をするための設定方法

ネットワーク接続をするためには、すべてのコンピュータについて以下の設定が必要になります。

- 「プロトコル (TCP/IP または NetBEUI)」<sup>1</sup>、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認、「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加
- ユーザー情報、または識別情報 (コンピュータ名、ワークグループ) の確認
- コンピュータの共有設定 (ハードディスク、プリンター等の共有)  
ここでは、ハードディスクの共有を説明しています。プリンターを共有する場合は、プリンターメーカーによって操作が異なりますので、プリンターメーカーにご相談ください。

#### 7.1.2 ネットワークコンポーネントの確認

はじめにネットワーク接続に必要なコンポーネントがインストールされているか確認します。

ここでは、Windows 98 の場合を例にしています。

- (1) 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択します。
- (2) 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- (3) 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」<sup>2</sup>に、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

---

1. ここでは、「TCP/IP」を例に説明しますが、ピアツーピア接続を行うには、「NetBEUI」プロトコルなども利用できます。

2. Windows 95 の場合は、「現在のネットワークコンポーネント」が「現在のネットワーク構成」という表示になります。

## 7 ネットワークの設定

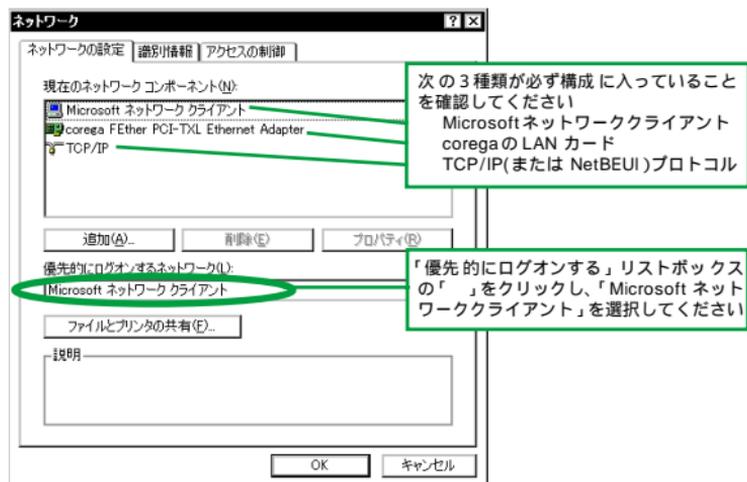


図 7.1.2-1 「ネットワークの設定」

「TCP/IP (または NetBEUI)」と「Microsoft ネットワーククライアント」が「現在のネットワークコンポーネント」に無い場合は、以下の【ネットワークコンポーネントに無い場合】を参考に各サービスやプロトコルを追加してください。

### 【ネットワークコンポーネントに無い場合】

- 「Microsoft ネットワーククライアント」が無い場合は、「7.1.4 「Microsoft ネットワーククライアント」の追加」(p.87) へ
- 「TCP/IP」(または「NetBEUI」)が無い場合は、「7.1.5 プロトコル (TCP/IP または NetBEUI) の追加」(p.88) へ
- 「corega の LAN カード」が無い場合は、各 OS の「インストールの確認とアダプターの設定」へ

### 7.1.3 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加

以下の手順に従い、「Microsoft ネットワーク共有サービス」を追加します。ここでは Windows98 の画面を例にしています。

- (1) 「ネットワークの設定」タブの「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックします。

- (2) 「ファイル共有できるようにする」および「プリンタを共有できるようにする」をチェックし「OK」をクリックします。画面が戻り「Microsoft ネットワーク共有サービス」が追加されます。

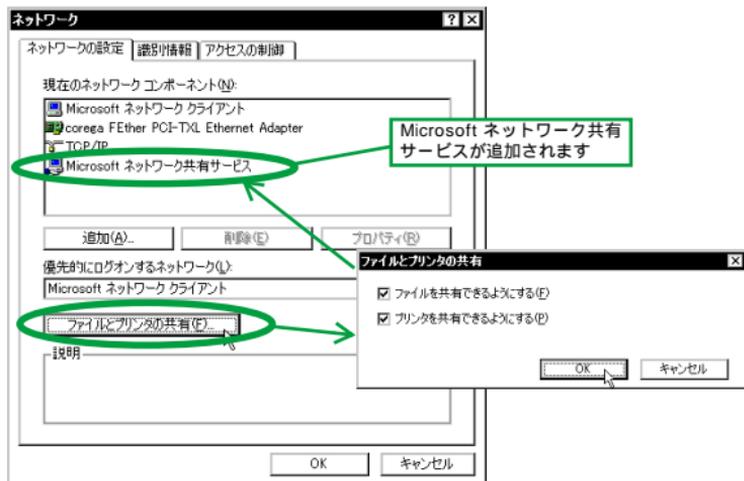


図 7.1.3-1 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加

#### 7.1.4 「Microsoft ネットワーククライアント」の追加

ここでは、「Microsoft ネットワーククライアント」の追加方法について説明します。以下の手順に従ってください。ここでは、Windows98 の場合を例にしています。

- (1) 「スタート」メニューの「設定」「コントロールパネル」「ネットワーク」をダブルクリックし、「ネットワークの設定」タブで、「追加」をクリックしてください。



図 7.1.4-1 ネットワーク構成ファイルの追加

## 7 ネットワークの設定

- (2) 「インストールするネットワークコンポーネント」の一覧より、「クライアント」を選択し、「追加」をクリックします。

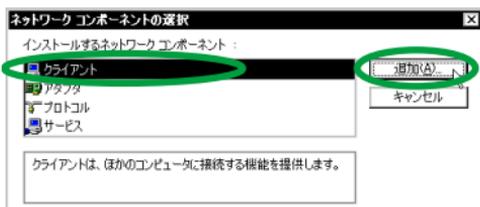


図 7.1.4-2 「ネットワーククライアント」の追加

- (3) 「製造元」に「Microsoft」、「ネットワーククライアント」に「Microsoft ネットワーククライアント」を選択し、「OK」をクリックします。



図 7.1.4-3 「Microsoft ネットワーククライアント」を追加

- 「OK」ボタンをクリックすると(2)の画面に戻ります。「7.1.2 ネットワークコンポーネントの確認」で追加されていることを確認してください。

### 7.1.5 プロトコル (TCP/IP または NetBEUI) の追加

ここではネットワークプロトコルの追加について説明します。TCP/IP プロトコルについては、必要な場合のみ追加してください。TCP/IP の設定については、システム管理者にご確認ください。

- (1) 「スタート」メニューの「設定」「コントロールパネル」「ネットワーク」をダブルクリックし、「ネットワークの設定」タブで、「追加」をクリックしてください。

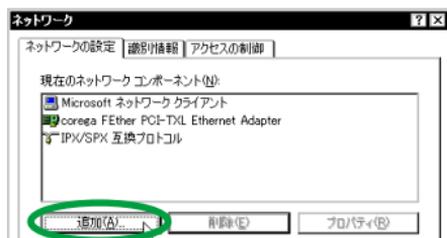


図 7.1.5-1 ネットワーク構成ファイルの追加

- (2) 「インストールするネットワークコンポーネント」<sup>1</sup>の一覧より、「プロトコル」を選択し、「追加」をクリックします。

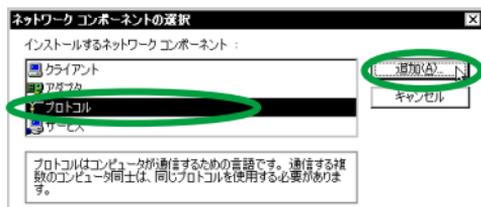


図 7.1.5-2 「ネットワークプロトコル」の追加

- (3) 「製造元」に「Microsoft」、「プロトコル」に「TCP/IP (または NetBEUI)」を選択し、「OK」をクリックします。



図 7.1.5-3 プロトコルを追加

- (4) 「OK」ボタンをクリックすると(2)の画面に戻ります。

1. Windows95 の場合は、「インストールするネットワークコンポーネント」が「インストールするネットワーク構成ファイル」という表示になります。

## 7 ネットワークの設定

TCP/IPの詳細設定や他のプロトコルの設定については、Windows98/95のネットワーク設定に関する参考書を参照していただくか、システム管理者にご確認ください。

### 7.2 Windows 2000

ここでは多くの環境で必須と思われるTCP/IPの基本設定についてのみ説明します。

TCP/IPの詳細設定や他のプロトコルの設定については、Windows 2000のネットワーク設定に関する参考書を参照していただくか、システム管理者にご確認ください。

- (1) 「スタート」 「設定」 「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択してください。
- (2) 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

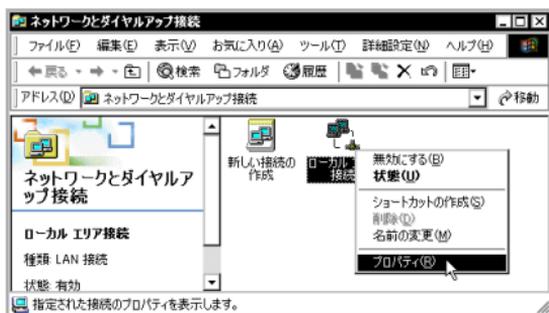


図 7.2-1

- (3) 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をクリックし、「プロパティ」をクリックしてください。

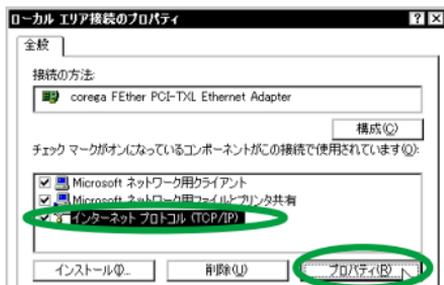


図 7.2-2

- (4) TCP/IP パラメーターの設定を行います。



「図 7.2-3」は、あくまでも設定の一例です。IP アドレスの設定についての詳細は、システム管理者にご確認ください。

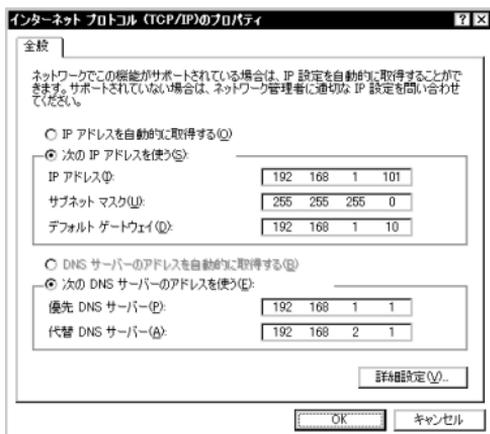


図 7.2-3

IP アドレスを自動設定する場合（DHCP を使う）  
ネットワーク環境が DHCP サーバーによって運用されている場合、「IP アドレスを自動的に取得する」を選択し、「OK」をクリックしてください。

IP アドレスを手動で設定する場合（DHCP を使わない）  
ネットワーク環境が DHCP サーバーによって運用されていない場合、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」、「優先 DNS サーバー」、「代替 DNS サーバー」の IP アドレスを入力し、「OK」をクリックしてください。

(5) 「OK」をクリックしてください。これで TCP/IP の設定は完了です。

## 7.3 識別情報の確認

以下の手順に従い、「識別情報」を確認します。ここでは、Windows98 の場合を例にしています。

(1) 「コントロールパネル」 「ネットワーク」をダブルクリックし、「識別情報」タブをクリックしてください。



Windows95 の場合は、「識別情報」というタブが「ユーザー情報」というタブになります。Windows 2000 の場合は、「コントロールパネル」 「システム」 「ネットワーク ID」タブの「プロパティ」ボタンをクリックすると設定画面が表示されます。

## 7 ネットワークの設定

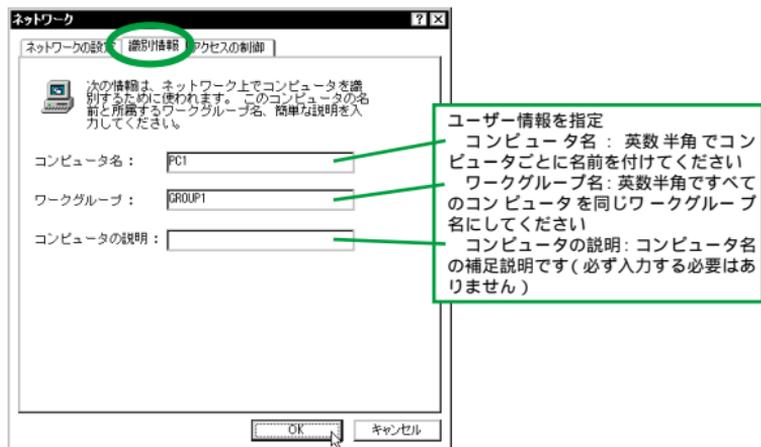


図 7.3-1 「識別情報の確認」

設定する項目の詳細は、次の通りです。

- コンピュータ名：ネットワーク上でコンピュータを識別するための名称です。各コンピュータごとに固有の名称を設定します。  
コンピュータ名は、自由に設定できますが、以下にご注意ください。
    - 15文字以下の半角英数字で入力すること
    - 接続する全てのパソコン名は異なること
  - ワークグループ：ネットワーク上のコンピュータをグループ分けするための名称です。特に分ける必要がなければ、ネットワーク内のコンピュータは、すべて同一の名称にしてください。  
ワークグループ名は、自由に設定できますが以下にご注意ください。
    - 15文字以下の半角英数字で入力すること
    - 全てのワークグループ名は同じにすること
    - LAN環境へアクセスする場合は、所属するネットワークのワークグループと同じにすることワークグループ名などの詳細は、ネットワーク管理者へお問い合わせください。
  - コンピュータの説明：「コンピュータ名」の補足説明です。特に入力しなくても構いません。
- (2) 「コンピュータ名」、「ワークグループ名」、「コンピュータの説明」を設定します。設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックしてください。



**重要:**ワークグループ名は、接続する全てのコンピュータに同じ名前を設定してください。Windows の OS 自体が、コンピュータ名・ワークグループ名の漢字（日本語・カナ）に対応していません。必ず英数半角をご使用ください。

- (3) Windows の再起動が要求されますので、「OK」ボタンを押して、再起動してください。



要求されない場合でも、設定を有効にしますので手動で再起動してください。

- (4) Windows が再起動され「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。

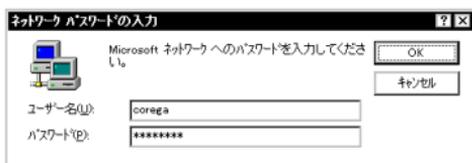


図 7.3-2 「ネットワークパスワードの入力」

- ネットワークを使用するときは、ユーザー名とパスワードを入力してください。ただし、ネットワークを使用しないときは入力する必要はありません。
- ユーザー名とパスワードは、Windows をセットアップする過程で設定しています。初めてログインするときは、セットアップ時のユーザー名とパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。（パスワードは空白でも可能です）



ユーザー名とパスワードは任意に設定できます。特に決まりはありません。また名称によって通信ができないという事もあります。



注意

「ネットワークパスワードの入力」ダイアログは、「ネットワークの設定」ダイアログ（「コントロールパネル」 「ネットワーク」）の、「優先的にログオンするネットワーク」の設定で、「Microsoft ネットワーククライアント」が選択されていない場合は表示されません。



「ユーザー名」と「パスワード」は毎回、必ず入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。入力しない場合は、ネットワークでの通信ができなくなることがあります。

## 7.4 コンピュータのディスク共有設定

コンピュータのドライブやフォルダの共有を設定します。ここでは、「マイコンピュータ」の中の「Cドライブ」を共有するときの手順を例に説明します。

- (1) デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
- (2) 「マイコンピュータ」ダイアログの「(c:)」ドライブアイコン上で右ボタンをクリックし、メニューを表示して「共有」を選択します。

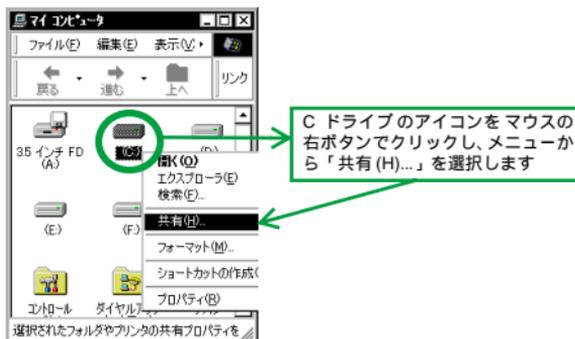


図 7.4-1 「Cドライブ」の共有

- (3) 「共有」タブをクリックし、「共有する」をチェックします。
- (4) 「共有名」、「アクセス権の種類」、「パスワード」などの項目を運用方法に合わせて設定します。

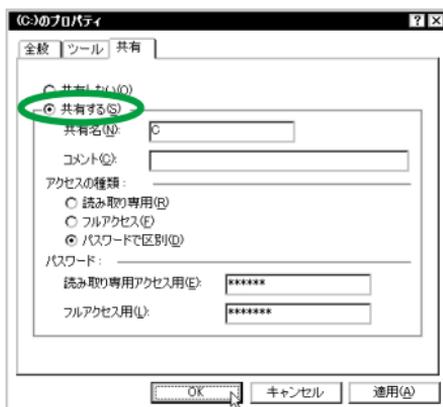


図 7.4-2 「共有」の設定

設定する項目の説明は、次の通りです。

- 共有しない：ドライブの共有を解除するときに選択します。
- 共有する：ドライブの共有を設定するときに選択します。
- 共有名：共有するドライブの名称を変更することが出来ます。
- コメント：共有するドライブやフォルダに対する説明を入力します。  
(必ず入力する必要はありません)
- アクセス権の種類：共有するドライブに対して読み書きの許可を設定します。
  - ・読み取り専用：共有するドライブを読み込み専用にします。
  - ・フルアクセス：共有するドライブに読み書きを許可します。
  - ・パスワードで区別：パスワードにより、読み書きを許可します。
- パスワード：「アクセス権の種類」に対するパスワードです。
  - ・読み取り専用アクセス用：読み取りを許可するときのパスワードを設定します。
  - ・フルアクセス用：読み書きを許可するときのパスワードを設定します。

(5) C ドライブのアイコンが次の画面のようになります。



図 7.4-3 共有設定されたドライブの表示

## 7.5 他のコンピュータへの接続

以下の手順に従い、他のコンピュータに接続します。

- (1) Windows デスクトップ上の「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。接続されているコンピュータが表示されます。

## 7 ネットワークの設定



図 7.5-1 「ネットワークコンピュータ」表示

- (2) 表示されているコンピュータのアイコン から接続したいコンピュータをダブルクリックします。
- (3) 共有設定で、「共有する」と設定されたドライブが表示されます。
- (4) 上記 (3) で表示されたドライブをダブルクリックすると、「共有する」と設定されている中身（ファイルやフォルダ）が表示され、アクセスが可能となります。



**重要**：タイミングによって接続したいコンピュータが表示されない事もあります。その際は、「ネットワークコンピュータ」を再表示、または「表示」メニューの「最新の情報に更新」を選択してください。

以上で ネットワークの設定は全て完了です。

## 8 ネットワークのトラブル

---

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

### 8.1 LINK LED は点灯していますか?

LINK LED は、接続先機器（ハブやスイッチ）と正しく接続されている場合に点灯します。LINK LED は、本製品と接続先機器の両方に存在します。本製品と接続先機器の両方のLINK LED が点灯していることを確認してください。どちらか一方しか点灯していない、または両方とも点灯しない場合は、以下のことを確認してください。

- 接続先機器の電源がオンになっているか確認してください。
- UTP ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 正しいUTPケーブルを使用しているか確認してください。本製品と接続先機器との接続には「ストレートタイプのケーブル」を使用しなければなりません。
- 接続先機器のポートの設定が正しいか確認してください。機器によっては、機器同士を接続するためのポート（カスケードポート）を持つものがあり、通常カスケードポートには設定スイッチが存在します。カスケードポートに本製品を接続するときは、カスケードポートの設定スイッチで同ポートを「MDI-X」や「to pc」に設定しなければなりません（通常ハブやスイッチのポートとして設定する）。
- 接続先機器の特定のポートが故障している可能性もあります。ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。
- UTP ケーブルに問題はありますか？ ケーブルの不良は外観から判断しにくい（絞線は良いが特性が悪い場合など）他のケーブルに交換して試験してみてください。
- 接続先機器の通信速度を確認してください。各 OS の「ドライバーの設定」を参考に、接続先機器に合った速度を選択してください。

### 8.2 LINK LED は点灯しているが...

LINK LED は点灯しているが、通信が遅いなどの障害が発生している場合、以下のことを確認してください。

- UTP ケーブルの長さは正しいですか？ ふたつのネットワーク機器の直接リンクを形成する UTP ケーブルは、最長 100m と規定されています。
- 正しい UTP ケーブルを使用していますか？ 100BASE-TX では「カテゴリー 5」、10BASE-T では「カテゴリー 3」以上の UTP ケーブルを使用しなければなりません。

- UTP ケーブルに問題はありますか？ ケーブルの不良は外観から判断しにくい  
ため（結線は良いが特性が悪い場合など）他のケーブルに交換して試験してみてください。

### 8.3 Auto-Negotiation 機能

インストール直後には、本製品の通信設定は「Auto-Negotiation」に設定されており、接続先機器との通信速度（100/10Mbps）やモード（Full/Half Duplex）は、本製品の Auto-Negotiation 機能によって自動的に設定されます。しかしながら、Auto-Negotiation をサポートしていない機器に接続した場合、正常に機能しない場合があります。Auto-Negotiation 設定で正常に接続できない場合は、次の対応表を参考にして、本製品および接続先機器の設定を変更してください。設定の変更方法については、各 OS の「ドライバーの設定」を参照してください。

		corega FEther PCI-TXL				
		10M Half	10M Full	100M Half	100M Full	オートネゴ
接続先	10M Half	○	—	—	—	○
	10M Full	—	○	—	—	—
	100M Half	—	—	○	—	○
	100M Full	—	—	—	○	—
	オートネゴ	○	—	○	—	○

図 8.3-1 通信モード対応表

接続先機器が Half duplex（半二重）のみに対応している場合、本製品を Full duplex（全二重）に設定すると、ネットワーク障害の原因となりますので避けてください。この場合は、接続先機器と同様に Half duplex に固定するか、Auto-Negotiation を選択してください。

### 8.4 ハードウェアの故障

以下のような現象の場合は、ご使用コンピュータの PCI バスや本製品の故障とされます。

昨日まで正常に動作していたのに、急に通信ができなくなりました。

このような場合は、「PCI バスのハードウェア診断」を行う必要があります。現象および調査内容を本マニュアル巻末の「調査依頼書」に明記の上、corega サポートセンターまで FAX してください。（詳細は「E ユーザーサポート」（p.102）をご覧ください。）

# 付録

---

## A 製品仕様

### 1. ハードウェア仕様

- サポート規格: IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX、IEEE802.3u Auto-negotiation、IEEE802.3x Flow control

### 2. 機械的仕様

- PCI インターフェース: PCI ローカルバス仕様 Rev. 2.2 に準拠
- 外形: 73 [mm] × 120 [mm] (ブラケット部分を除く)
- 重量: カード: 約 65g

### 3. 電氣的仕様

- 動作電圧: DC +5V
- 消費電流: 最大 200mA

### 4. 環境条件

- 動作保証温度: 0 ~ 55
- 保存温度: -10 ~ 60
- 動作・保存湿度: 10% ~ 90% (ただし結露なきこと)

### 5. 電気雑音の発生防止

- 取得承認: EMI 規格 VCCI クラス B

### 6. ネットワーク機能

- 転送速度: 100Mbps または 10Mbps
- 通信モード: 半二重または全二重

### 7. 使用するハードウェア資源 <sup>1</sup>

- 割り込み (IRQ): 1 チャンネルを使用

---

1. これらは、PCI ローカルバス仕様により自動的に設定されます。ボード上あるいはソフトウェアから設定する必要はありません。

- I/Oアドレス：連続した 128 バイトを使用

## B ネットワークインターフェース

100BASE-TX/10BASE-T インターフェース (MDI) は RJ-45 型と呼ばれるモジュージャックが使用されています。

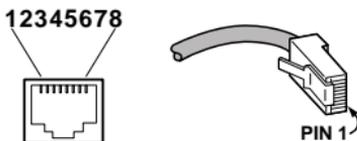


図 B-1 RJ-45 モジュージャック、プラグ

ピン番号	信号 (MDIポート)
1	送信データ (+)
2	送信データ (-)
3	受信データ (+)
4	未使用
5	未使用
6	受信データ (-)
7	未使用
8	未使用

図 B-2 信号線名

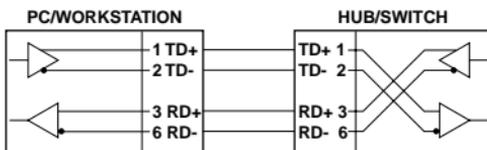


図 B-3 UTP ケーブル (ストレートタイプ)

## C MAC アドレス

イーサネットに接続される機器は、MAC アドレスと呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MAC アドレスは機器（アダプター）のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の（unique、ユニークな）アドレスです。

MAC アドレスは、下記の 6 バイト（48 ビット）によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本製品の MAC アドレスは、製品に貼付されている MAC アドレスラベルに記入されています（表記は全て 16 進数）。

00	90	99	xx	xx	xx
ベンダー ID			通し番号		

- **ベンダー ID**

LANベンダー（LAN 用機器を製造しているメーカー）が IEEE に申請することにより得られる識別番号です。

- **通し番号**

この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたものです。この通し番号と本製品の「シリアル番号ラベル」の番号に関連はありません。



MAC アドレス（マックアドレスと読みます）は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもあります。また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境で使用される IP アドレスに関係がありませんが、これらは別々のものです。

## D 保証と修理について

### 保証について

本書に記載されている「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で本製品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。本製品（ドライバーディスクは除く）の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

### 修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、巻末の「調査依頼書」をコ

コピーしたものに必要事項をご記入の上、保証書を添付し、弊社サポートセンター宛てに製品を送付ください。製品を送付する際は、以下の点にご注意ください。

- 弊社サポートセンターへ製品を送付する際の送料料金につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。尚、運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- 宅急便などの送付状の控えが残る方法で送付願います。(普通郵便による送付は、固くお断りいたします。)
- 修理期間は、製品到着後、約10日程度(弊社営業日数)を予定しております。

## 製品送付先

〒222-0033 横浜市港北区新横浜 1-19-20

(株) コレガ corega サポートセンター宛

## E ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAX してください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAX によって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書の記入について」をご覧ください。

Tel: 045-476-6268 10:00-12:00 13:00-17:00 月～金(祝・祭日を除く)

Fax: 045-476-6294 年中無休 24 時間

- † 電子メールでのユーザーサポートの受付および対応は、実施しておりません。上記のいずれかの方法でお問い合わせください。

### E.1 調査依頼書の記入について

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

#### ハードウェアとソフトウェア

- 本アダプター上に貼られたラベルに記入されているシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev) を調査依頼書に記入してください。



(例)

- ご使用になっているソフトウェアの種類 / バージョン (Ver.) を記入してください。これらは、ドライバディスクのラベル上に記入されています。
- 他社のインターフェースボードやユーティリティをご使用の場合は全てご記入ください。
- 接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入ください。

お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に (再現できるように) 記入してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容をプリントアウトしたものなどを添付してください。
- 障害などが発生する場合には、本アダプターと併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入ください。

ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

## E.2 システムリソースレポート添付のお願い

お問い合わせの際には可能な限り システムリソースレポート (お使いのパソコンの詳細情報を OS が自動作成するレポート) を出力の上、「調査依頼書」に添付いただきますようお願いいたします。システムリソースレポートを出力する手順は以下の通りです。

- (1) コントロールパネルから「システム」を起動し「デバイスマネージャ」タブを表示します。
- (2) 「印刷 ...」ボタンをクリックします。
- (3) 「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要」を選択してください。以後、画面の指示にしたがってください。

## システムレポートの出力例 (Windows98 Second Edition の例)

```

システム リソース レポート   - ページ : 1

***** システムの概要 *****

Windows バージョン : 4.10.2222
コンピュータ名 : Unknown
システム バスの種類 : ISA
BIOS 名 : Phoenix
BIOS の日付 : 11/22/99
BIOS のバージョン : Phoenix NoteBIOS Version 4.05
コンピュータの種類 : IBM PC/AT
プロセッサの製造元 : GenuineIntel
CPUの種類 : Intel(r) Celeron(tm) Processor
数値コプロセッサ : 存在しません
登録オーナー : X X X X X X
登録会社 : X X X X X X

***** IRQの概要 *****

IRQの使用 :
00 - システムタイマー
01 - 106 日本語 (A01) キーボード (Ctrl+英数)
02 - プログラミング可能な割り込みコントローラ
03 - 通信ポート (COM2)
04 - 通信ポート (COM1)
05 - ES1878 Plug and Play AutoDrive
06 - 標準 フロッピー ディスク コントローラ
07 - プリンタ ポート (LPT1)
08 - システム CMOS/リアルタイム クロック
09 - PCI ステアリング用 IRQ ホルダ
10 - Chipset Graphics Driver PV1.1 (DC10)
11 - Bus Controller
12 - ホルダ

```

## E.3 最新ドライバーの入手方法

弊社は、改良のために予告なく、本製品のドライバーのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のドライバーは、弊社のホームページから入手することができます。また、このホームページではFAQ、パソコンの動作検証リストなどの情報もご案内しておりますので、ぜひご覧ください。

- (1) Microsoft Internet Explorer、Netscape NavigatorなどのWeb ブラウザーを使用して、次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.corega.co.jp/>

- (2) 「サポート」 「LAN アダプター・ドライバーソフトダウンロード」をクリックしてください。

- (3) ご希望のドライバーをクリックしてください。

#### E.4 「corega Net-News」のご案内

「corega Net-News」は、株式会社コレガがお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など耳よりの情報をお届けいたします。メール配信サービスをご希望のお客様は、corega ホームページでご登録ください。なお、メール配信サービスはどなたでもご登録いただけます。

## F おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

© 2000 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。

Windows、WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2000年 05月

Rev.A 初版

メモ

# 調査依頼書 (corega FEther PCI-TXL 1/2)

年 月 日

---

## 一般事項

---

1. 会社名 (個人名): フリガナ:  
部署名: ご担当者:  
ご連絡先住所: 〒  
TEL: ( ) FAX: ( )
2. 購入先: 購入年月日:  
購入先担当者: 購入先 TEL: ( )

---

## ハードウェアとソフトウェア

---

1. ご使用のカードのシリアル番号、製品リビジョン

製品名: corega FEther PCI-TXL



S/N \_\_\_\_\_ Rev \_\_\_\_\_

ドライバディスクのバージョン: Ver. \_\_\_\_\_ pl. \_\_\_\_\_

2. ご使用のコンピュータ機種と併用している他メーカーの拡張アダプター (ボード)  
コンピュータのメーカー名 / 機種  
OS とバージョン  
拡張アダプターのメーカー名 / 機種
3. ご使用のサーバー機種 (UNIX、NetWare、Windows NT など)  
コンピュータのメーカー名 / 機種  
OS とバージョン

---

## お問い合わせ内容

---

別紙あり

別紙なし

設置中に起こっている障害

設置後運用中に起こっている障害

# 調査依頼書（corega FEther PCI-TXL 2/2）

年 月 日

---

## ネットワーク構成

---

別紙あり

別紙なし

簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。



# 製品保証規定

この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

- LAN アダプター本体：製品保証書に記載の“保証期間”で無償保証とします。

(ただし、本規定の他の条項に準じます。)

- 本体付属品（ドライバーディスク、WOL ケーブルなど）：3ヶ月間保証

保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。(ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。)

1. 使用上の誤り または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、静電気、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4. 接続された他の機器が原因で生じた故障および損傷
5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
7. 製品保証書の提示がない場合
8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

本製品に付属のドライバー・ソフトウェアが他社の提供するハードウェア、またはアプリケーション・ソフトウェアと共有できるという動作保証、および使用によるその他の損害についての保証は行いません。

本ハードウェアが他社の提供するソフトウェア またはアプリケーション・ソフトウェアと共有できるという動作保証、および使用によるその他の損害についての保証は行いません。

修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

製品保証書は、日本国内のみで有効です。

製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

# 製品保証書（1年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製品名 corega FEther PCI-TXL

シリアル番号  
(S/N)

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先

coregaサポートセンター

〒222-0033 横浜市港北区新横浜 1-19-20

TEL：045-476-6268

受け付け時間：10:00～12:00/13:00～17:00  
月～金（祝・祭日を除く）

FAX：045-476-6294 年中無休24時間

販売店様印

本保証書にお買い上げ販売店の記名及び押印が無い場合は、有償扱いとなりますので予めご了承ください。

製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。